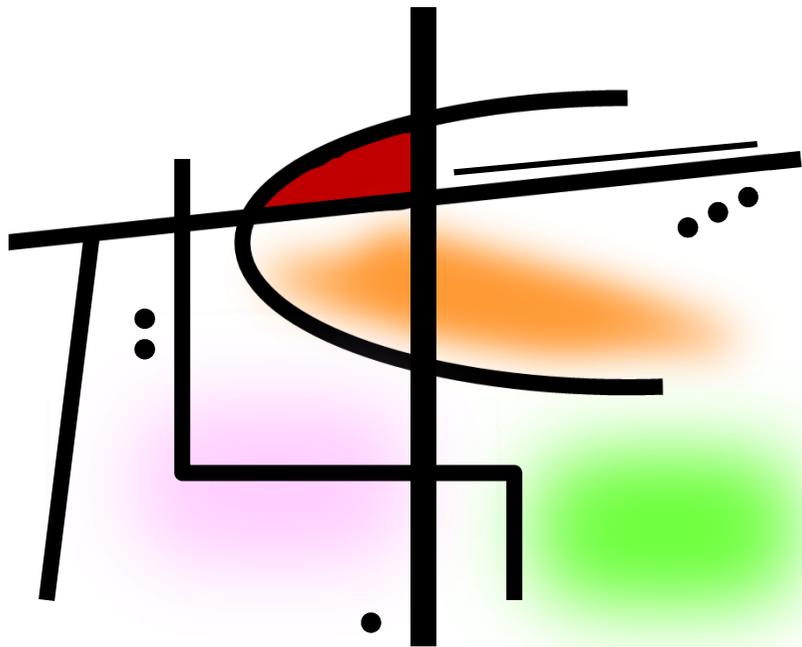


2016年3月 ことばのテーブル学習会

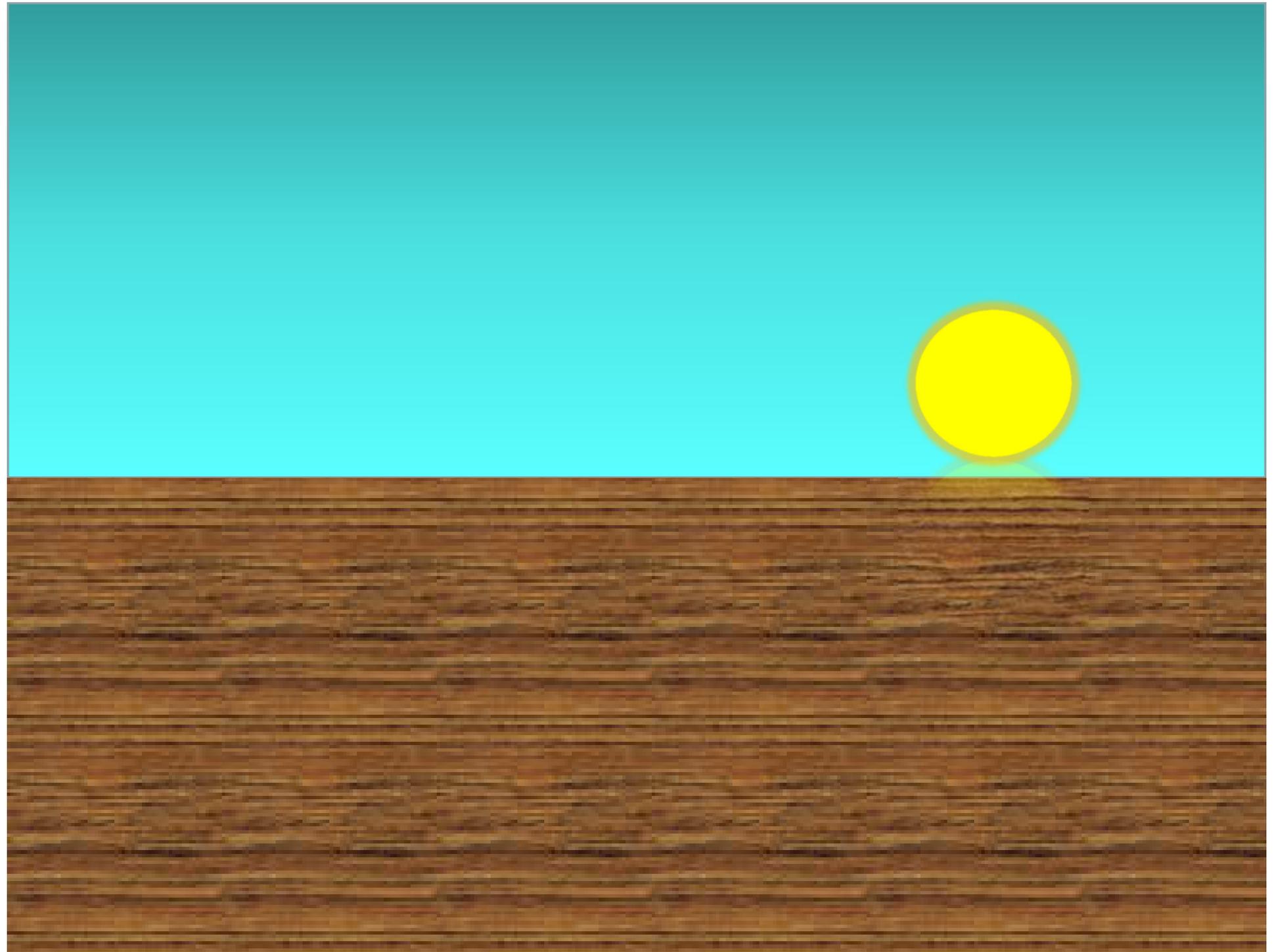
キーワードから考えることばの学習(15)
～線を考える～

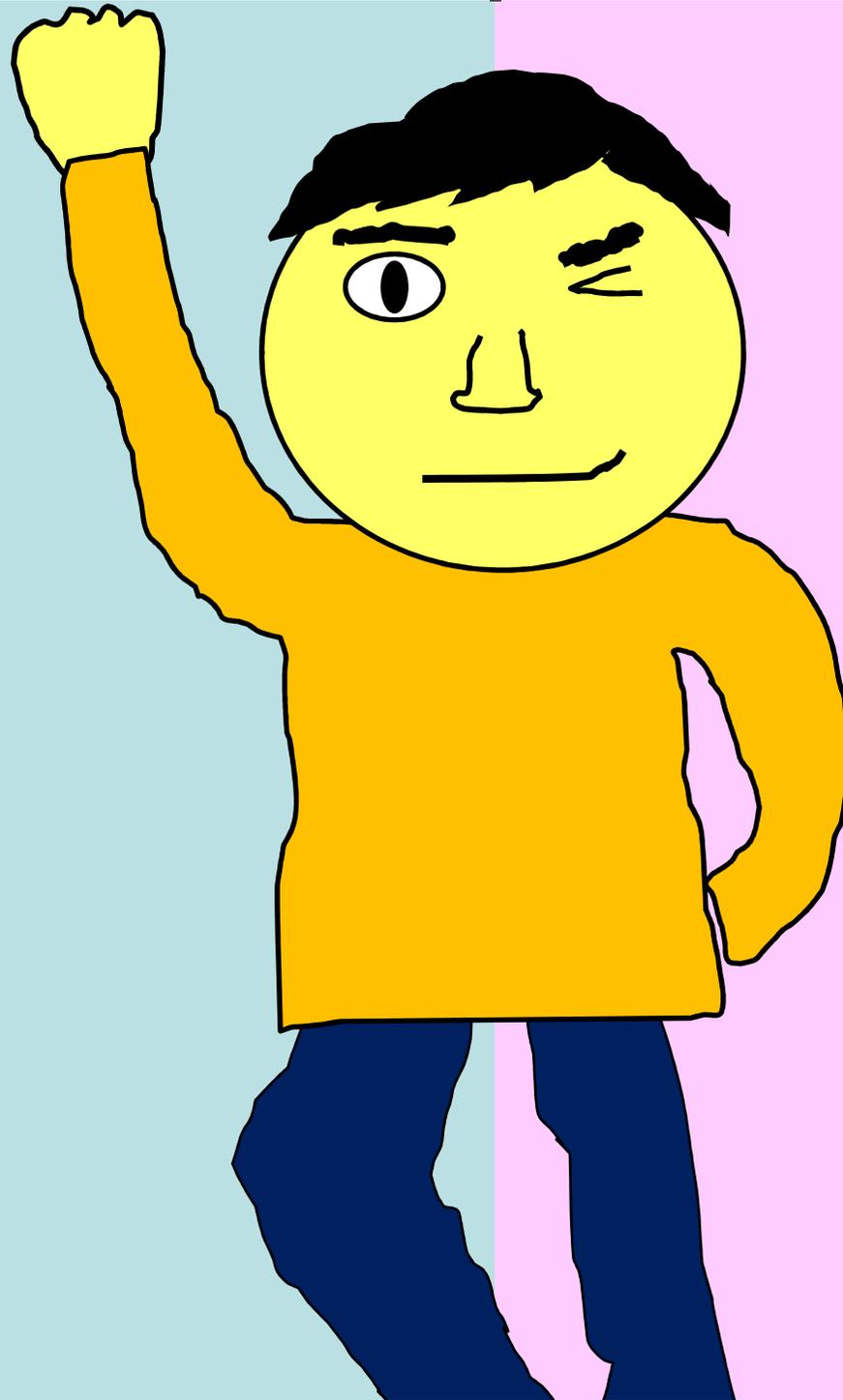


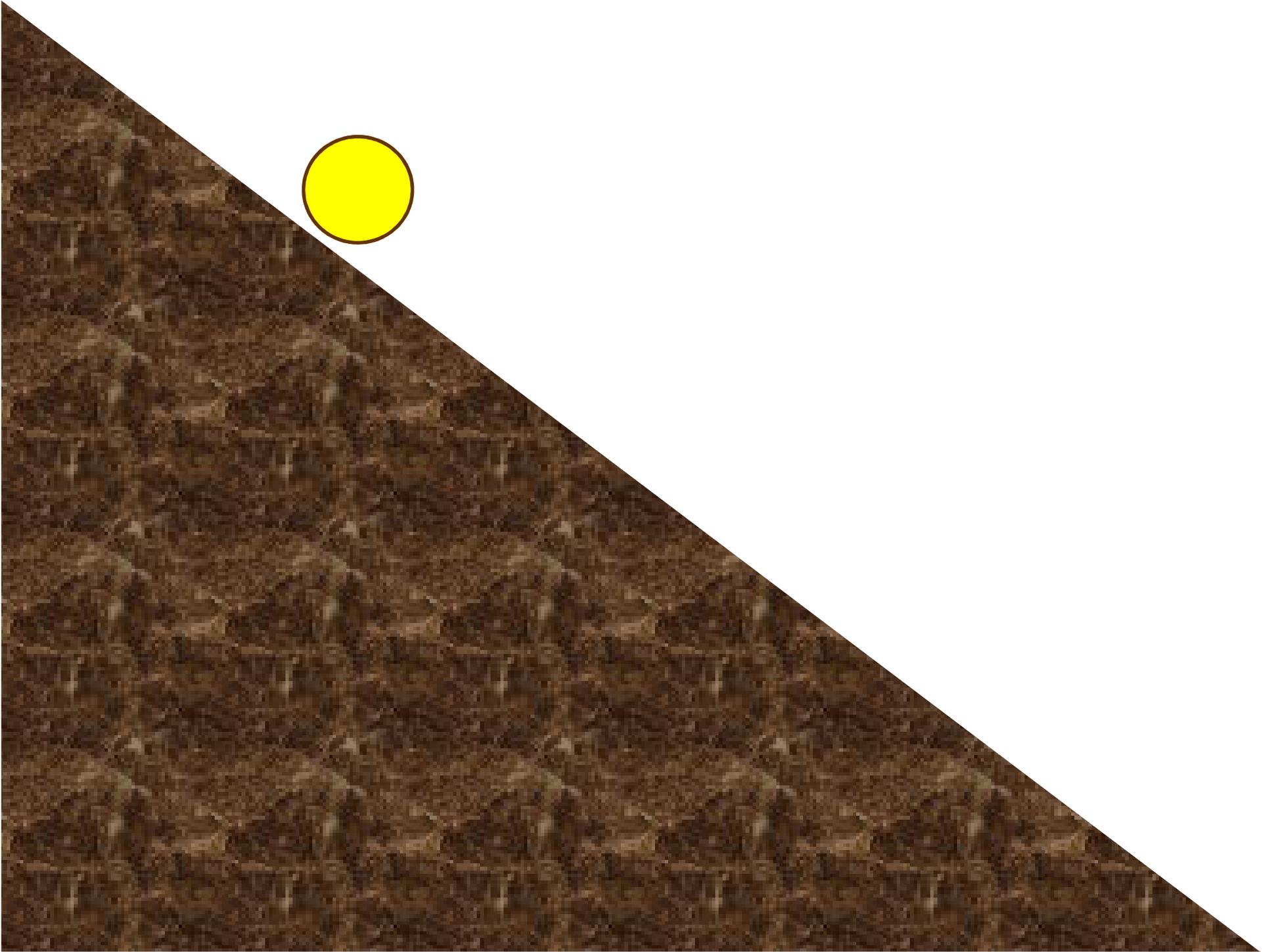
葛西ことばのテーブル
三好純太

一本の線が引かれる

すると...







線がわかること は、

自分を取りまく世界がわかること

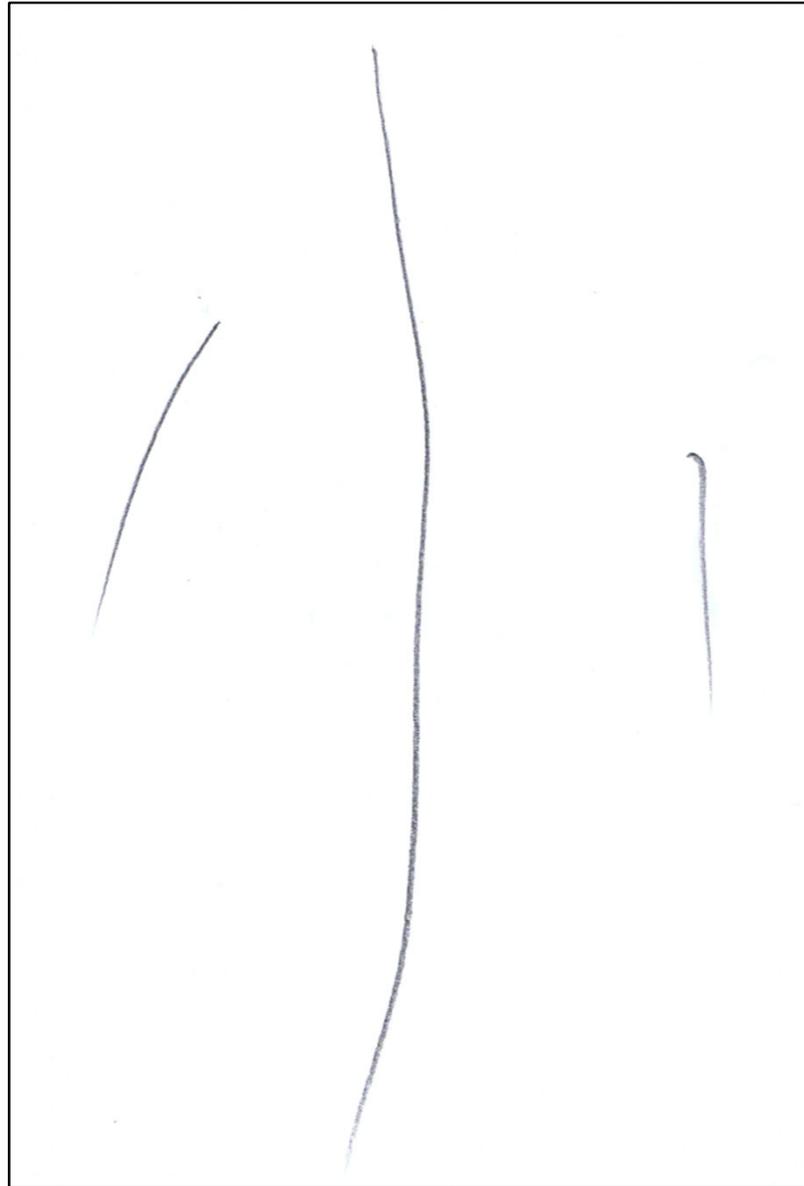
それでは

線を描くこと は、どうだろうか？

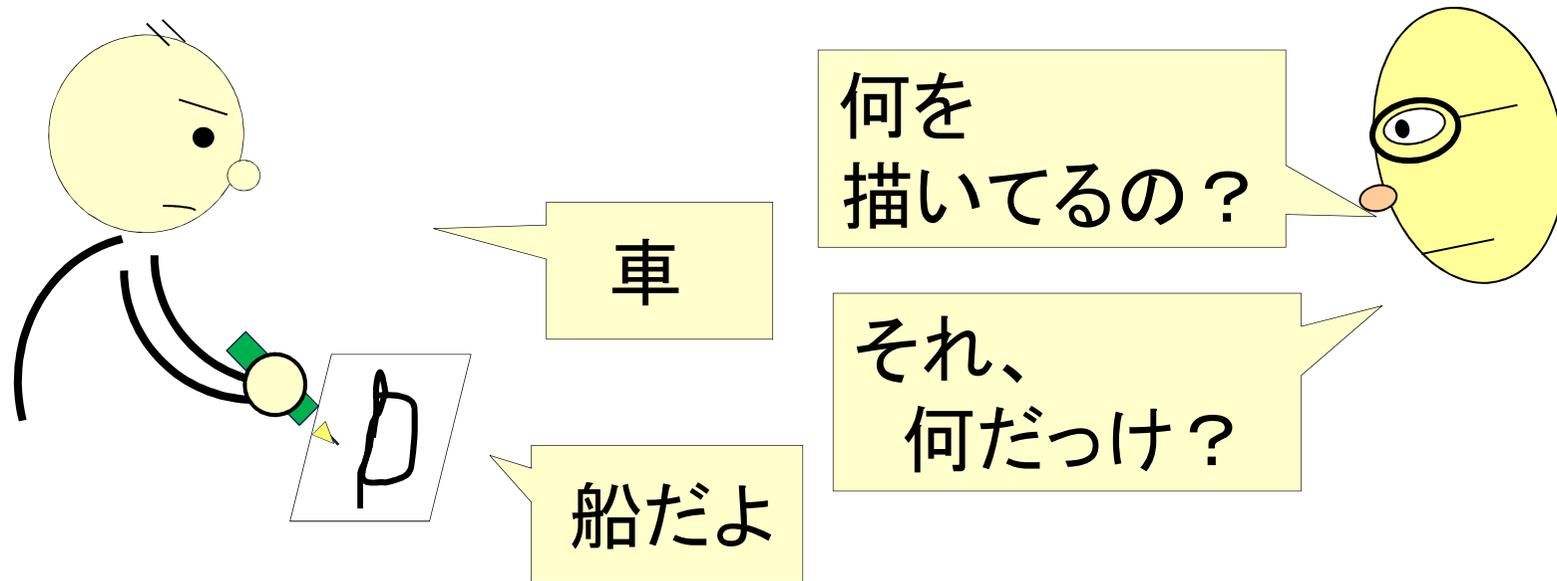
2才の頃、自分が描いた絵(偽)

ゾウ

を、描いたと、
言ったらしいが
最初からゾウを
書くつもりだっ
たのか？



子どものお絵かきを見ていると、
描いているもの／描こうとしているものが
どんどん変わっていくことが多い



最初から、何かが決定しているわけではなく
線が出現することで、新たな何かが浮かんでくる

まずは何かを描き出す

そこから・・・

点や線が生まれ、そして
線の長さや、太さや、傾きが生まれ
形が、文字が生まれて行く

線を描くことは、
自分なりの意味を生みだすこと

そして、

人間は、だれかに強制されることなく

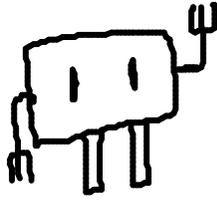
自発的に描き出す

ラスコーの洞窟壁画

紀元前1万年以上前



それは
なぜだろう……



今回のキーワード

ストローク

線の心

ゆっくりで行こう

線と声

測定

線で考える学び

線とは何か

～点・線・形の基礎知識～

線のことば

作る

分ける

交わる

つなぐ

沿う

当たる

接する

重なる

滑らか

ごつごつ

伸びる

切れる

曲がっている

まっすぐ

それと結びつく言葉から、
その性質が浮かび上がる

点

線

面

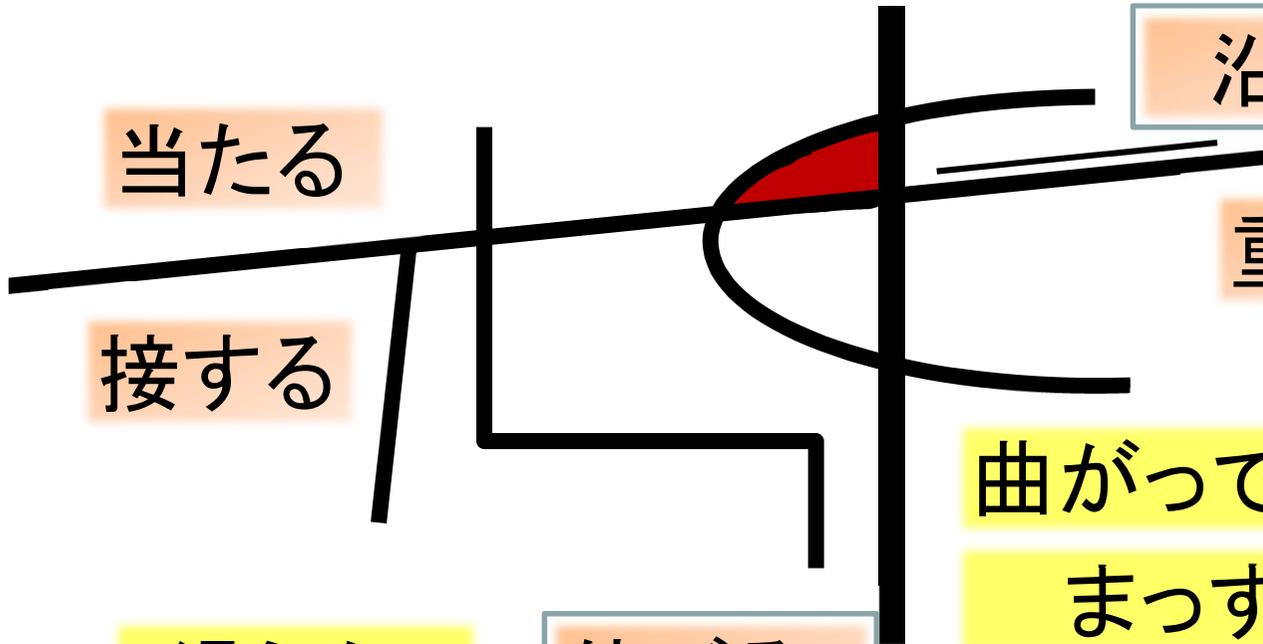
形

太い

細い

長い

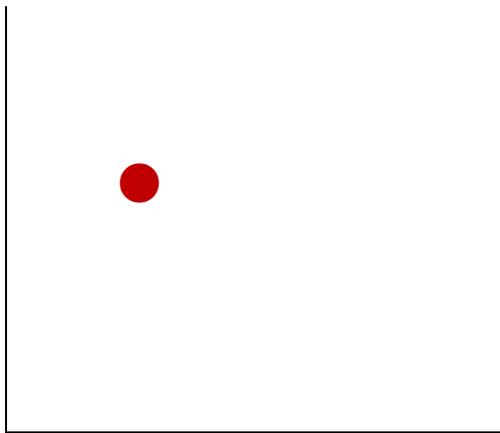
短い



点と線

点とは ●

位置を表し、大きさや
長さが無いもの



線とは

細長く連続するもの・筋

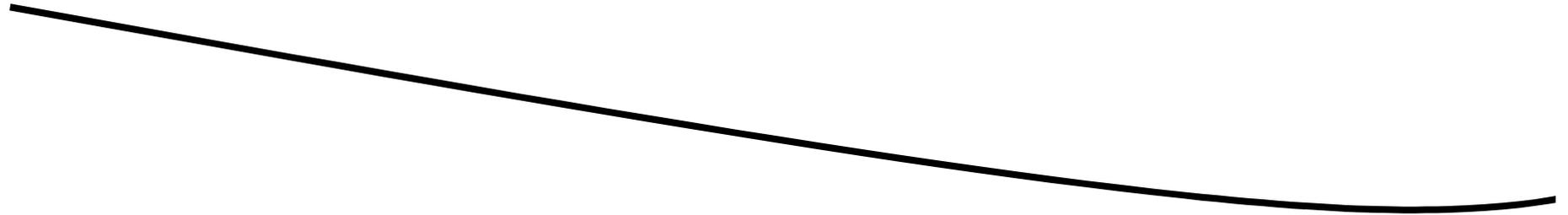


点が連なったもの

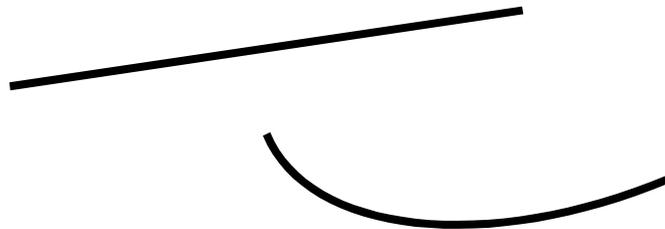


線と線分

線 どこまでも長く繋がっているもの



線分 両端が点で止まっている線



※今回は直線・曲線ともに
一定の長さを持つ線を
線分とした

学習では線分を扱うことが多い

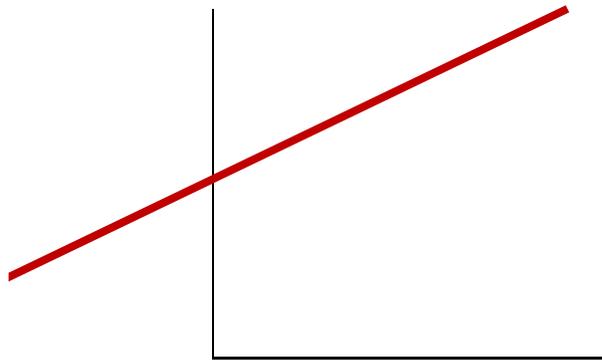
か

3cm

しかし、その中には線の本質(ずっと繋がっている)が含まれている

たとえば…

グラフの線は描かれている
先まで繋がっている



たとえば…

文字や文章を書くことは、
途切れない筆跡の繋がり

あさおきてはをみがいた
あさお

ひらがなの象徴形とされる文字がある

上部

下部

十

の

あ お す な

石川九揚『「書く」ということ』より

「の」は、つぎの字に続くために生まれた形

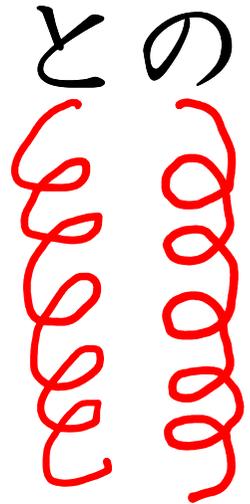
の
め
ば

なぜこの形なのか？

つぎの文字に
筆を続けて行くため

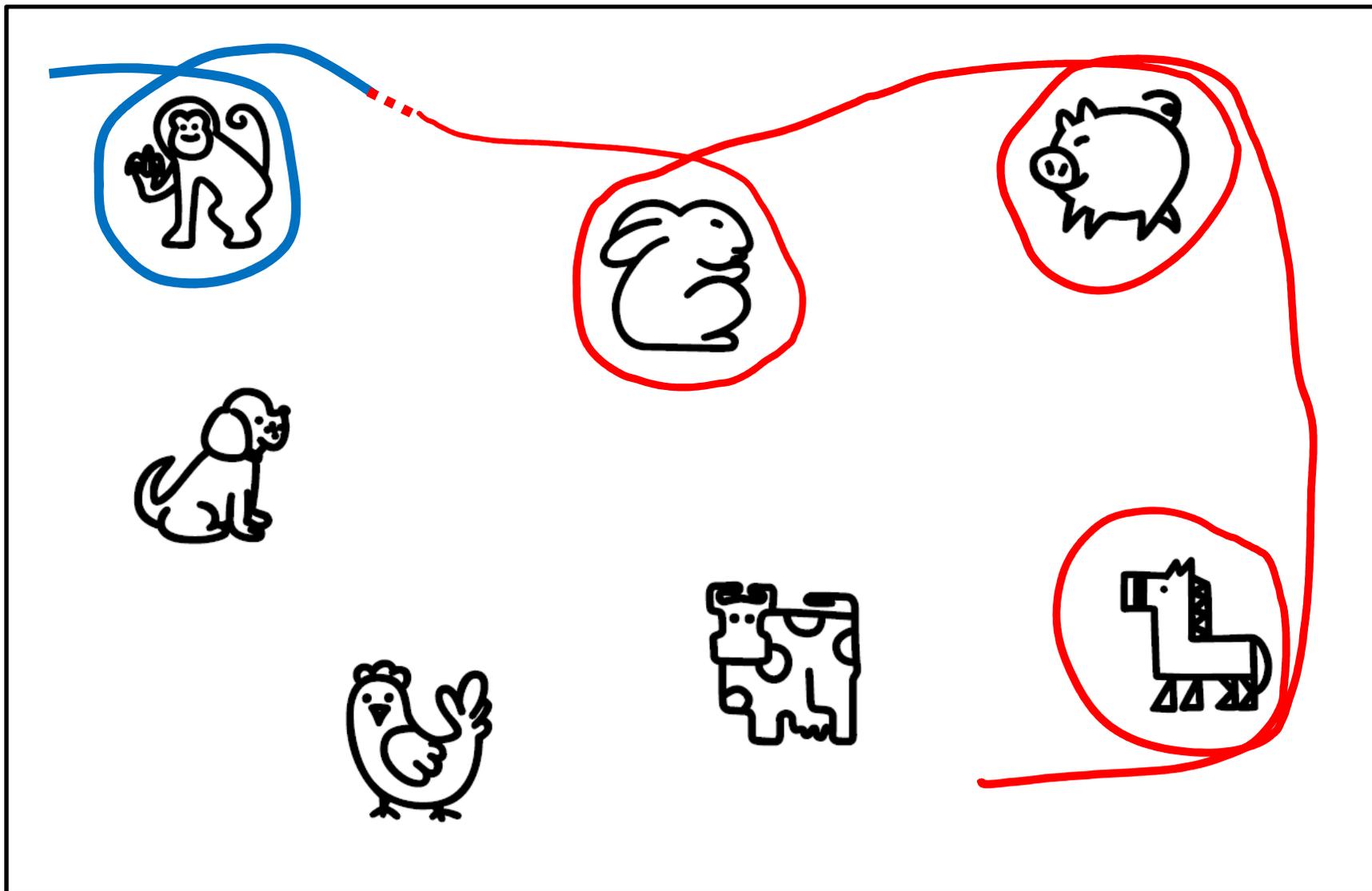
日本語は本来、縦書き

縦方向の右回転、もしくは
左回転の螺旋運動に
巻き線 支えられている

と の


巻き線練習

■ 線でつかまえよう



「線でつかまえよう」の目的

* 巻き線の描線練習

基盤となる線の認識と
描線能力が必要



★ 知覚の体制化: よき連続

★ ストロークの成立

☞ 後述 ○線の理解の発達 ○ストローク

線のエレメント(要素)

● 長さがある



● 太さがある



● 方向がある



● 始点と終点がある



線の種類

● 直線



● 折線



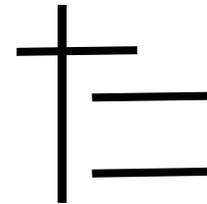
● 曲線



■ 単線



■ 複数線



線の集まり

た た た → た

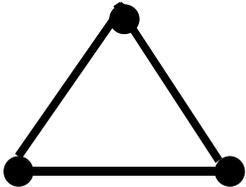
線の数、位置関係、長さ、太さ
などに、一定の規則がある場合、

その線の集まりは、**ユニット**となる

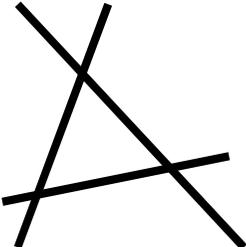
※ユニット＝集合体

面とは何か

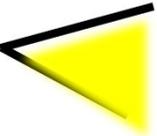
・ 3点を線で結んで、できるもの



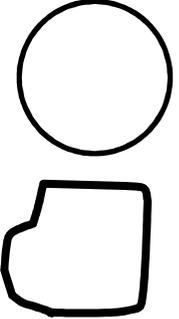
・ 3線の交わりで、でできるもの



* 折れ線: 面を用意する



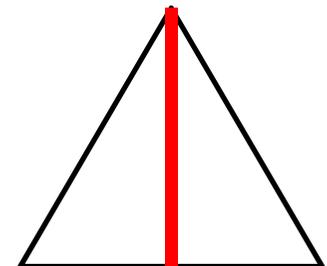
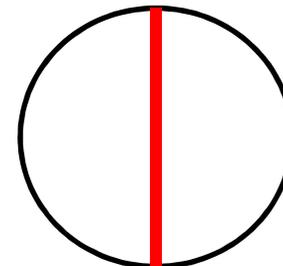
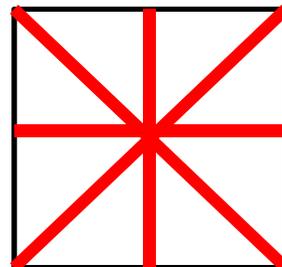
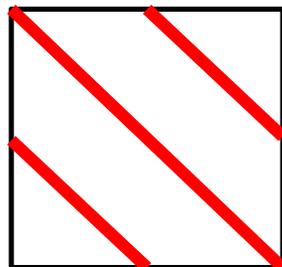
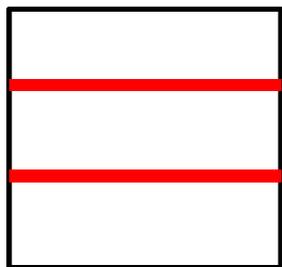
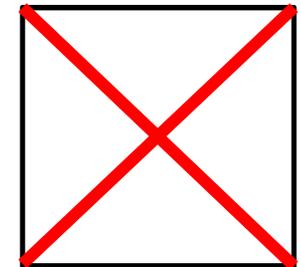
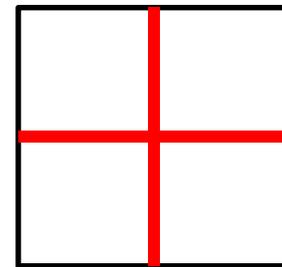
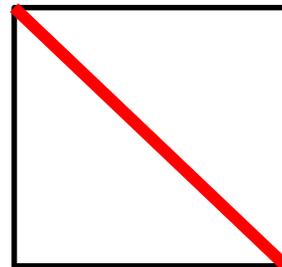
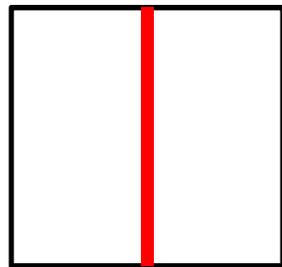
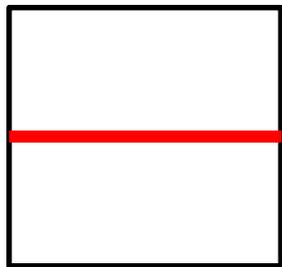
・ 閉じられた線によって、できるもの



★線による分割

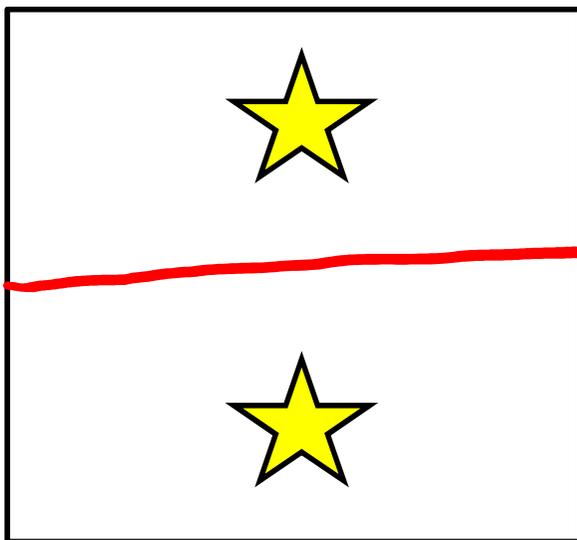
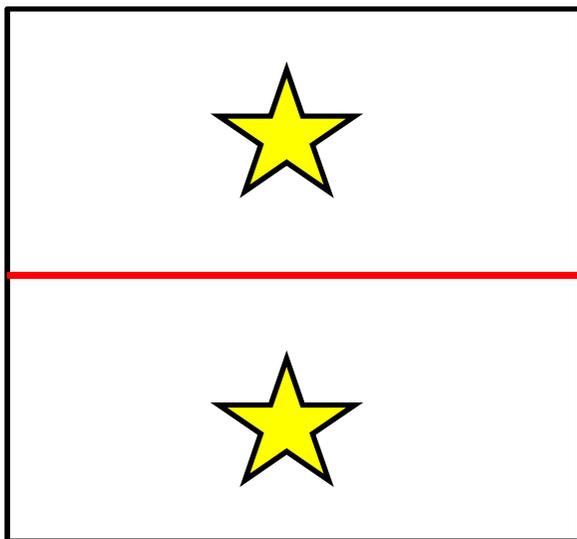
線が空間を分けることによって

位置・形・数が生まれる



分割課題

■ せんで わけよう

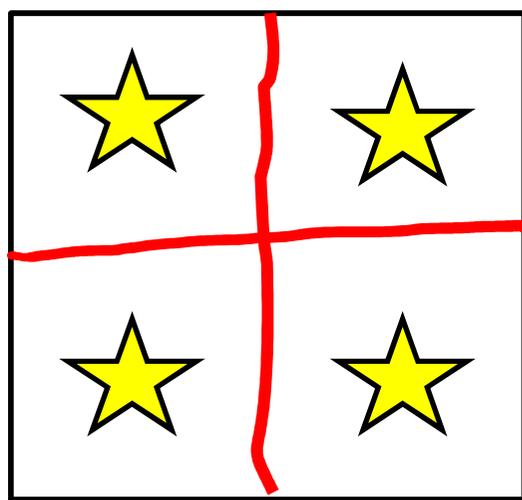
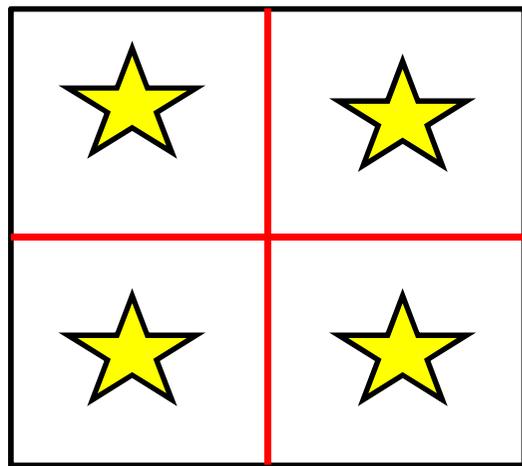
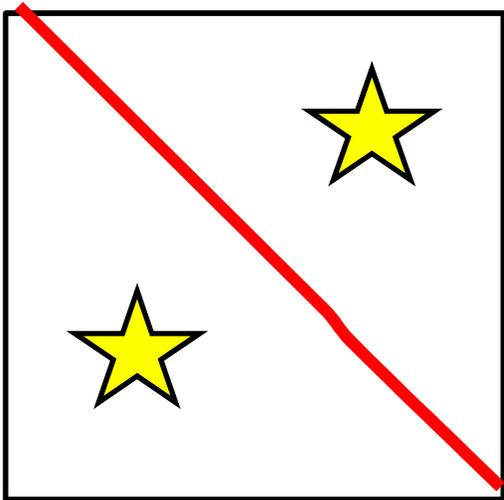
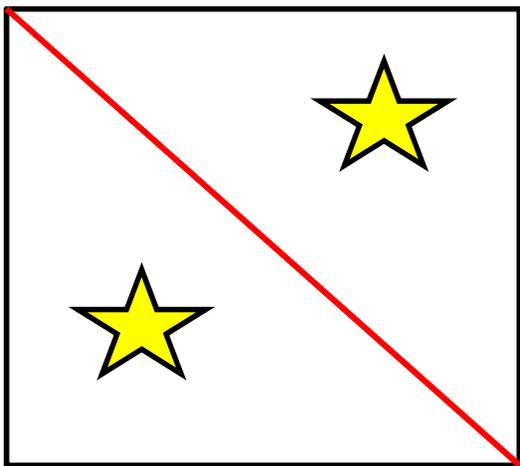
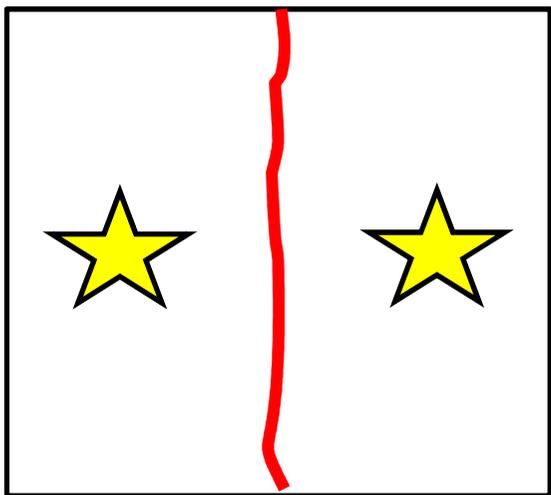
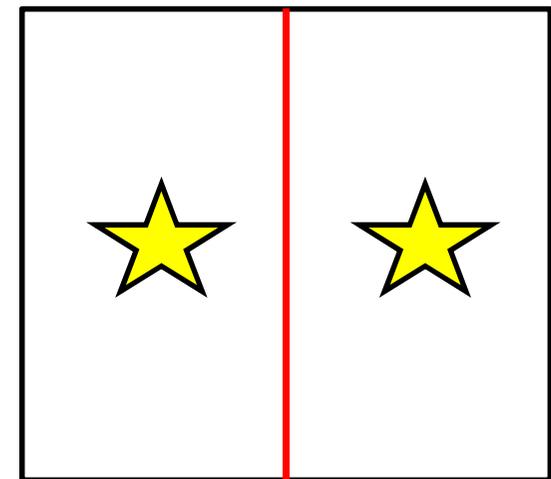


手本と同じように、
空間に配置された
星を線で仕分ける

線を模倣するのではなく、
「分ける」という目的により
結果的に、線が生まれる

分割課題

■ せんで わけよう



* 模倣では困難だった線を描けることが多い

線の発達

線の理解

視る力

描線能力

描く力

それぞれが支え合いながら発達する

線の理解 視る力 の発達

新生児

線のタテ・ヨコや、斜め方向の違い(角度)は、すでに認識している、と考えられている

その中でも...

タテの方向の優位性

が、確かめられている

線の集まりの認識

知覚の体制化が不可欠



事物を、より秩序的な「まとまり」に認識する働き

ゲシュタルト

文字が見分けられるのは、
それを線のユニット（まとまり）として
認識できるから

線のユニットを認識するための機能

★ 図一地の知覚

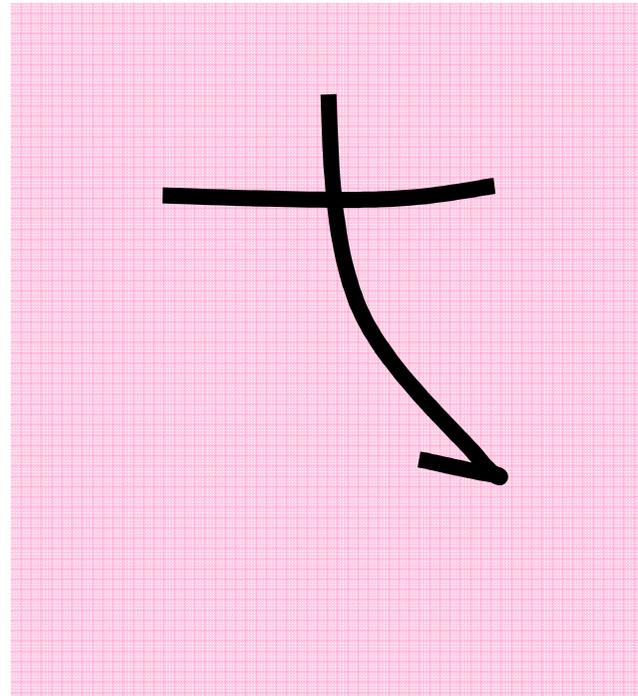
★ プレグナンツの法則

▲ ゲシュタルト崩壊

★ 図一地の知覚



地(背景)との対比で、
図を認識する



★プレグナントの法則

①近接

* * * * * * * * * *

け は

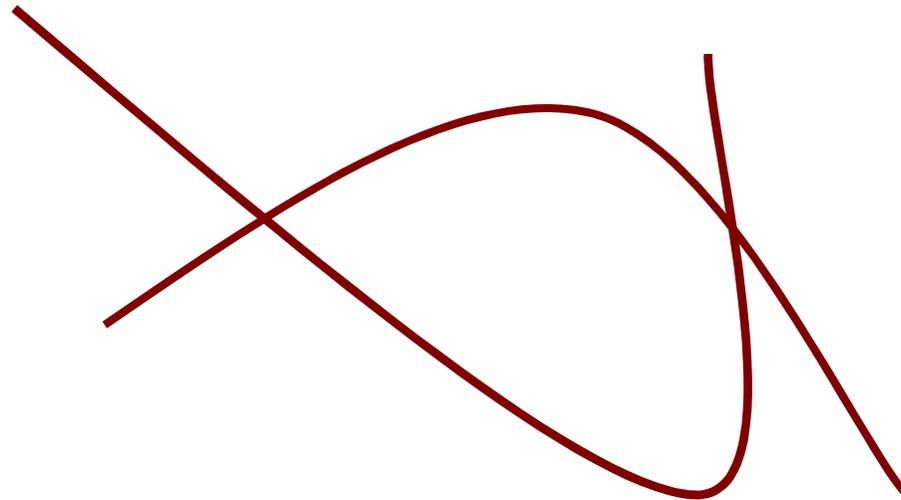
②閉合

< > < > < > < >

こ い

★プレグナンツの法則

③よい連続

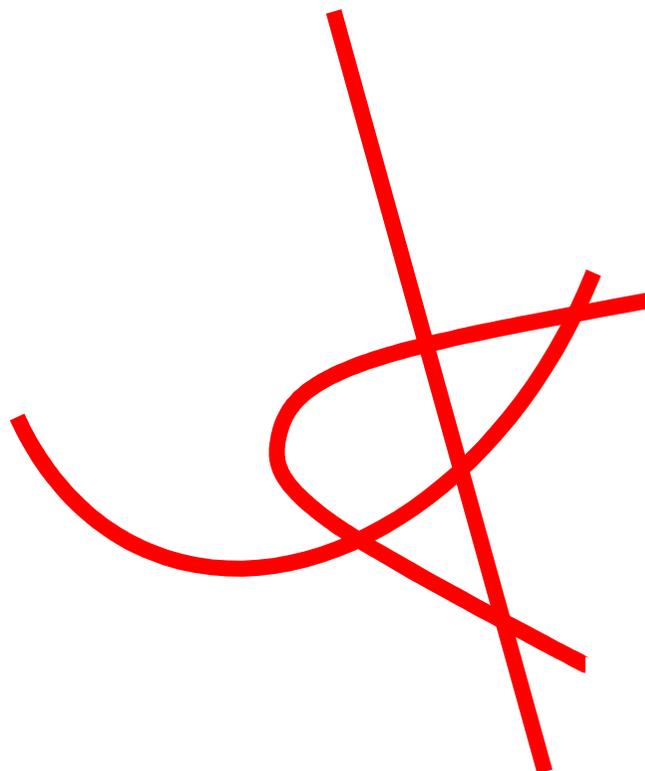


さけ

線の連続性
の課題

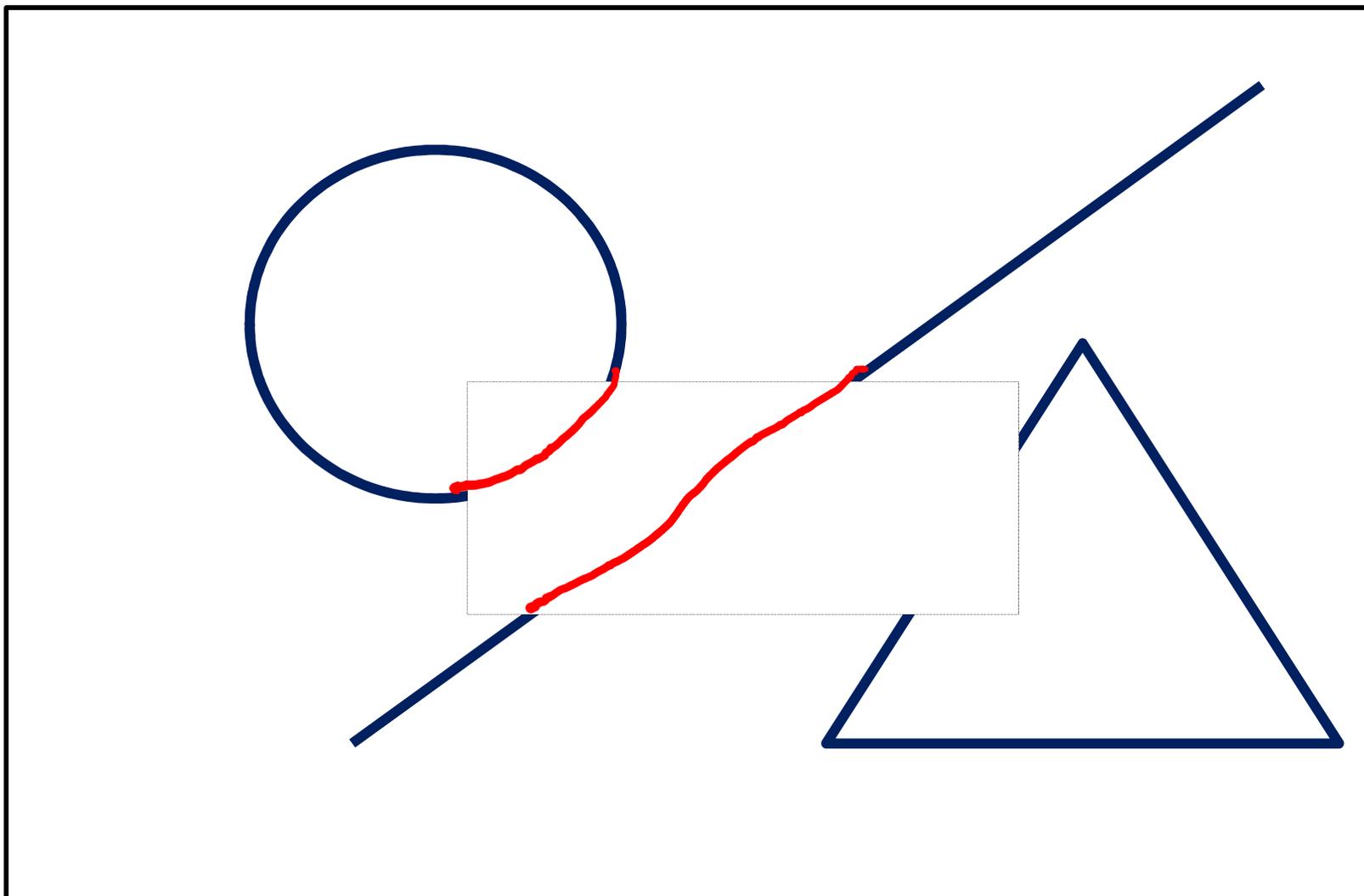
パワーポイントによる アニメーション教材

■せんは いくつかな？



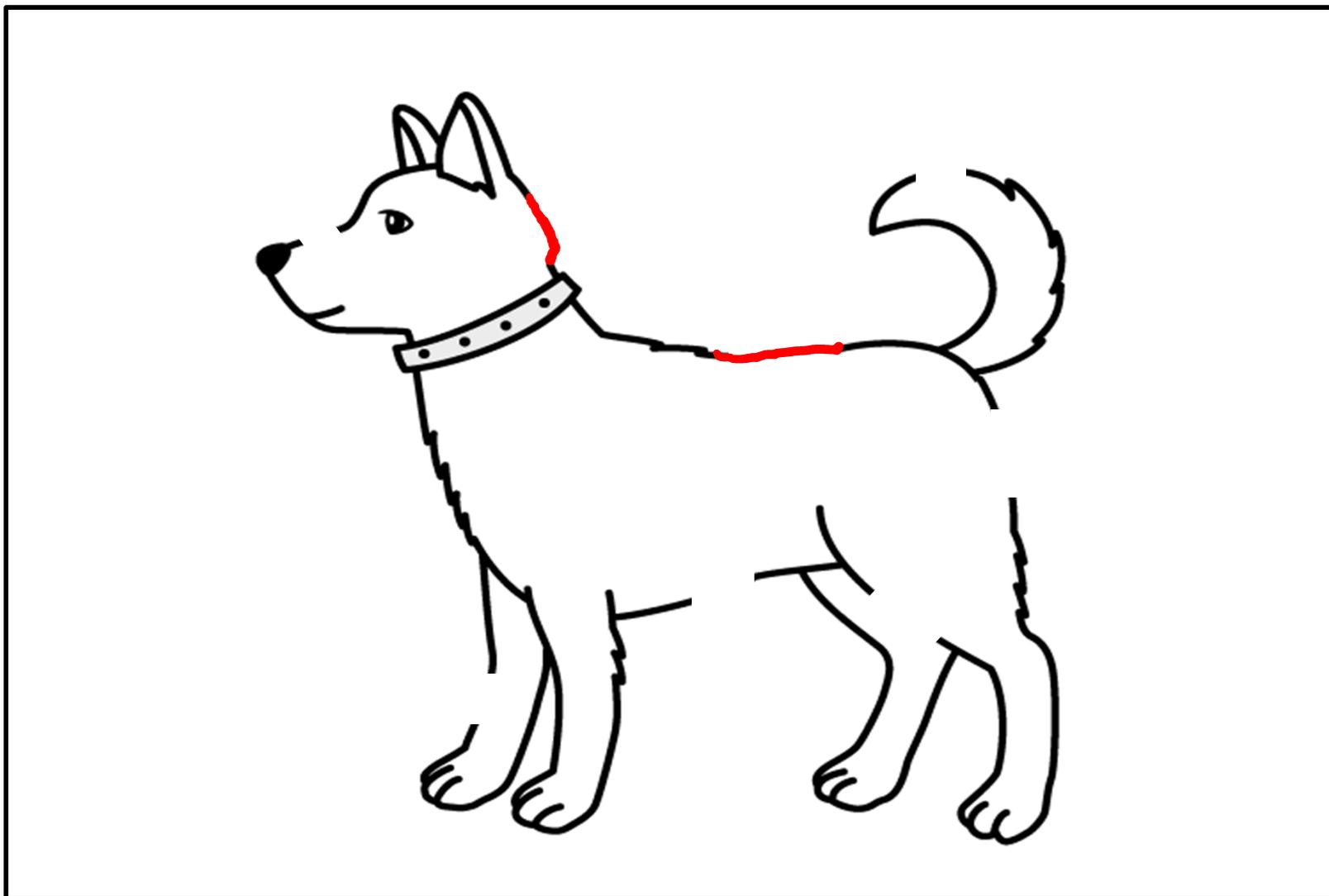
線の連続性
の課題

■ 見えないせんを かこう



線の連続性
の課題

■ たりないせんを かこう



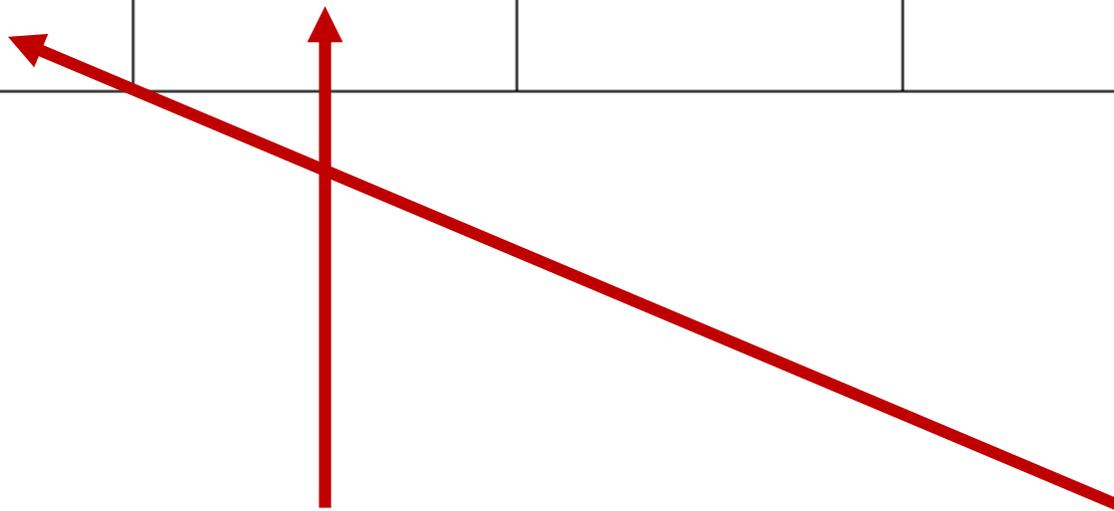
線の連続性の課題

■文字パズル

じを あわせよう 1

し	し	か	+

か	ん	ら	は
---	---	---	---

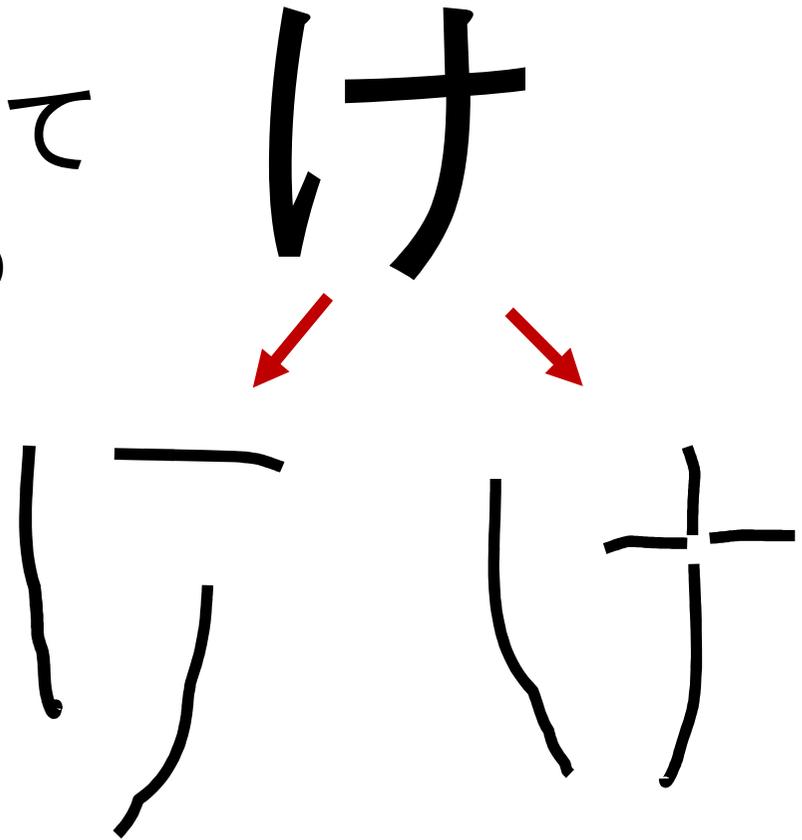


▲ゲシュタルト崩壊

安定したまとまり
(ゲシュタルト)が崩れて
バラバラに認識される

近

夏目漱石「門」から

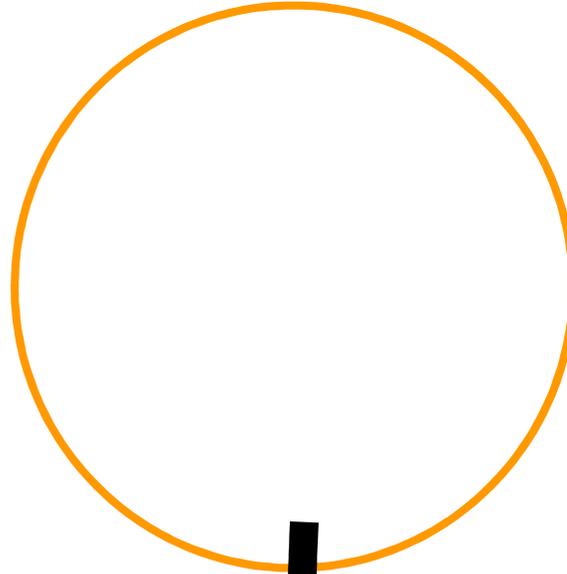


まとめり認識
の課題

パワーポイント
アニメーション
教材

■ なんの字に
なるかな

ニ



よ

た

な

ま

描線能力 描く力 の発達

点描



断続的な筆の打ちつけ

なぐり書き



不連続な反復運動

円錯画



連続した曲線

タテ線



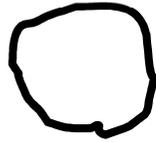
長さと方向を持つ
滑らかな線分

横線



線から形へ

円



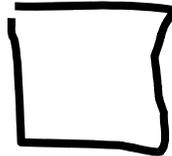
閉じられた線＝面の誕生

十字



左右対象に交わった線

四角



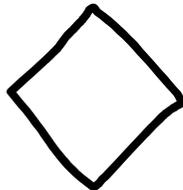
角の誕生

三角



斜線の表出

ひし形



ひらがな書字の基盤

* 5才～6才で達成



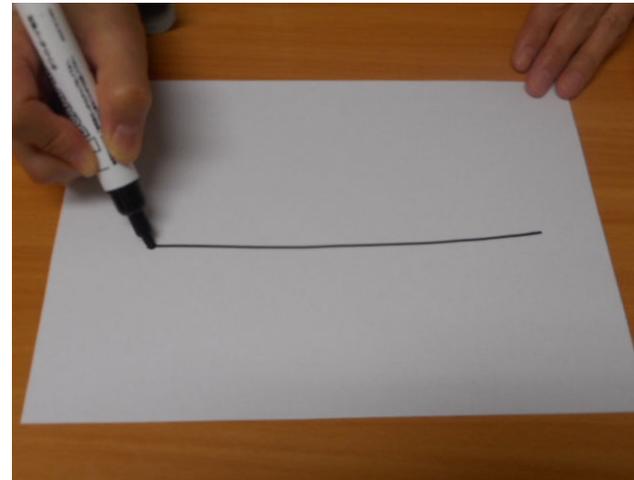
ストレージ

ストローク(stroke)とは何か

- ① 打つこと、一撃、ひと突き
- ② (水泳の)ひと掻き
- ③ 一筆、ひと彫り
- ④ 一画、字画



描線における
ストローク



書字研究におけるストローク

小森は、
ペンが紙についてから離れるまで、を
1ストローク としている【一筆書き】

そして、このストロークの成立と発展が
書字の習得に重要としている

👉「幼児期の描線発達と「ストローク単位」の成立との検討」(2007)

1ストロークの成立

滞りのない滑らかな一筆の線の産生

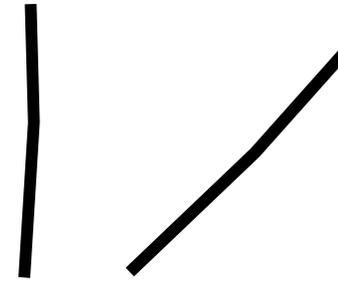
★ 停留がない

★ 始点一起点がある

★ 妥当な量(長さ)がある

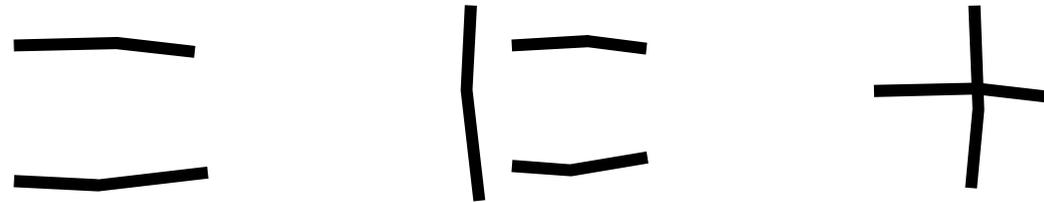
ストロークの発展

● 傾きのコントロール



● 複数のストロークの成立

* 一筆書きから字画へ

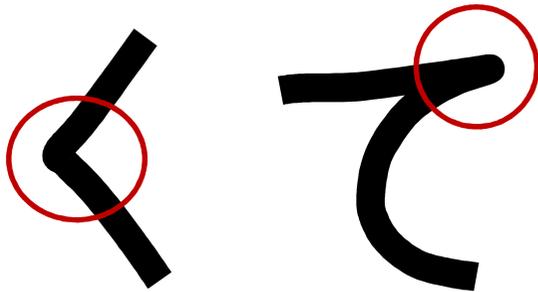


ストロークの変更

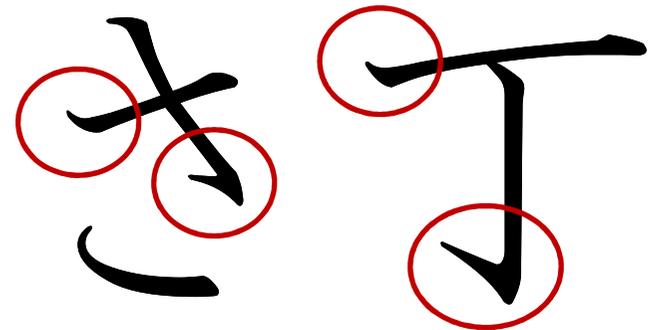
- ペンを紙から離さずに方向を変える



* 形態の成立

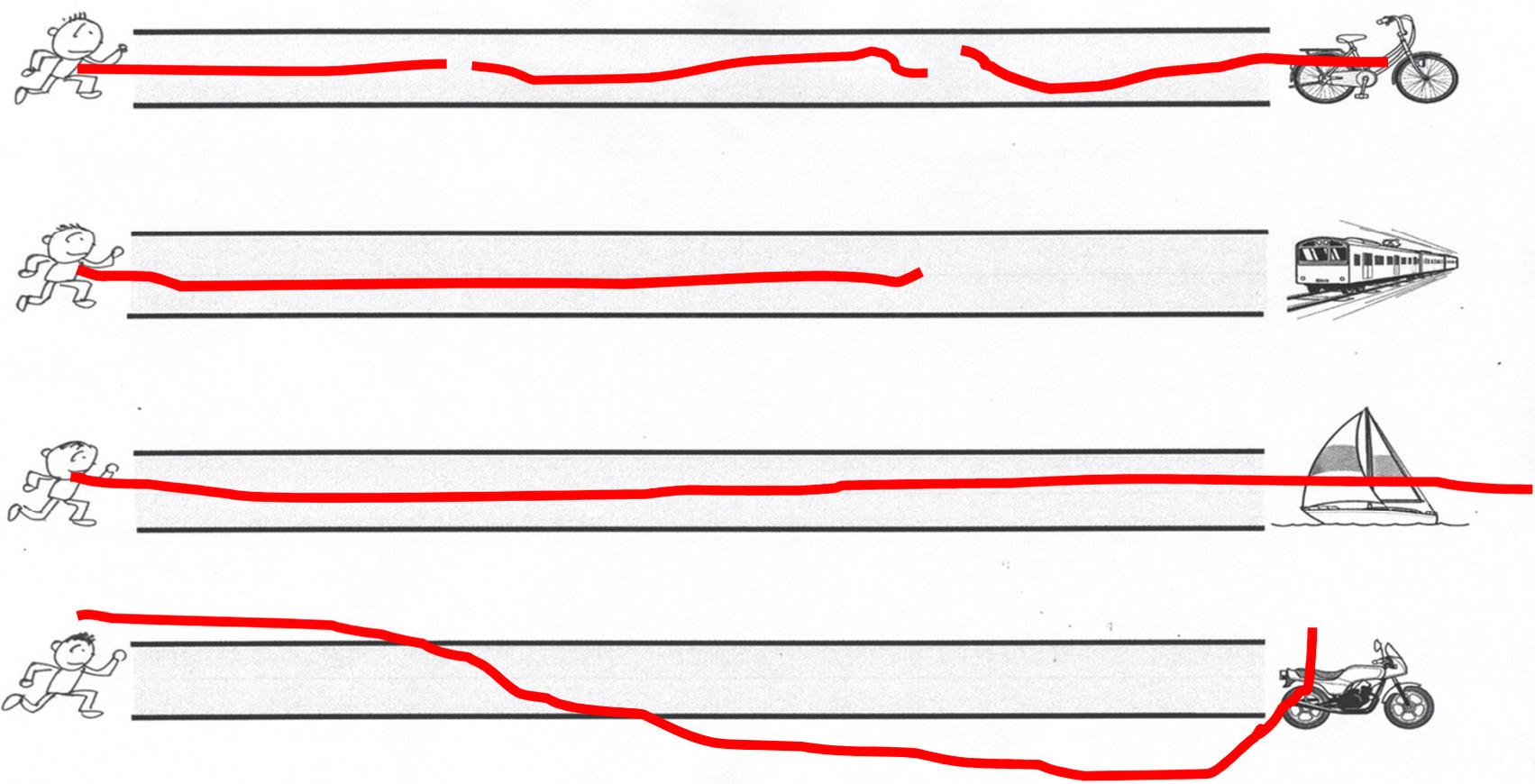


* はね・とめの成立



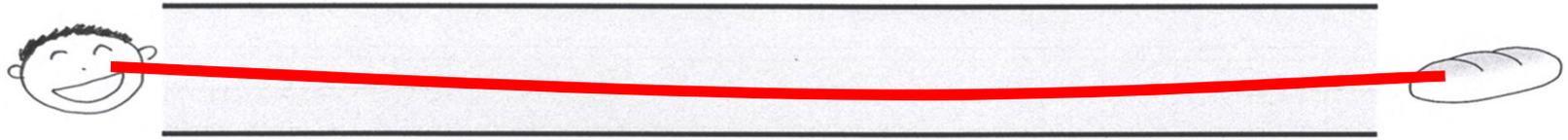
発達障害の子どもは、書字の基盤となる、このストロークが不完全であることが多い

■ 未熟な描線の例



まず...

1本の滑らかな線が書けるように



ストロークを作る

線の基盤の形成

- 
- ① 紙と筆記具の持続的接触
 - ② 始点と終点の意識
 - ③ 方向への意識
 - ④ 変更への意識

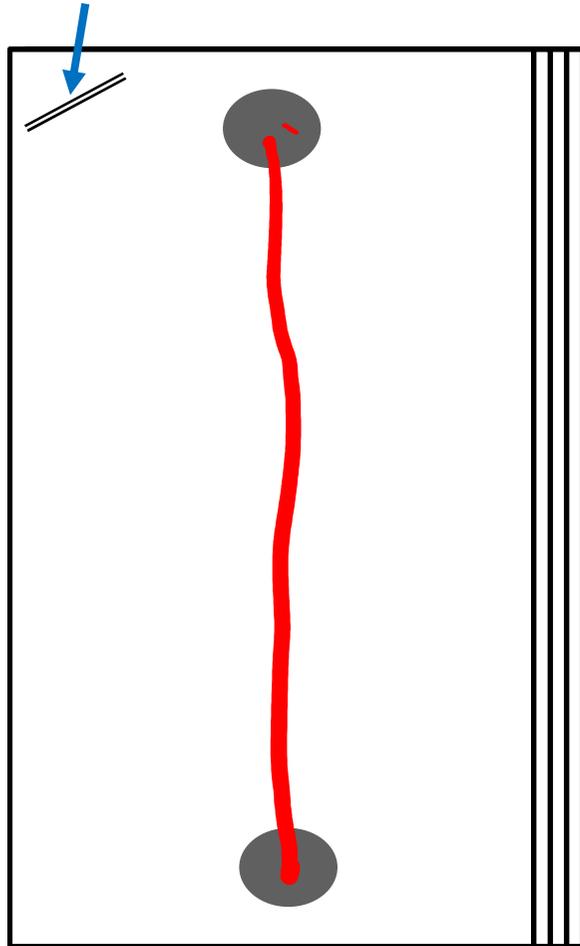
学習課題として

● 穴あけライティング

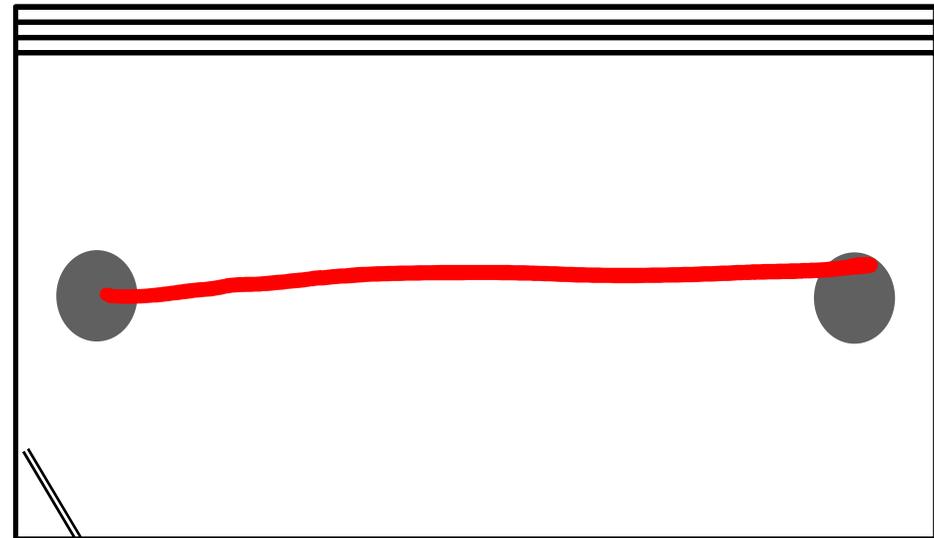
● 穴あけライティング

* 重ね合わせた紙の穴から穴へ、線を引く

ホッチキス



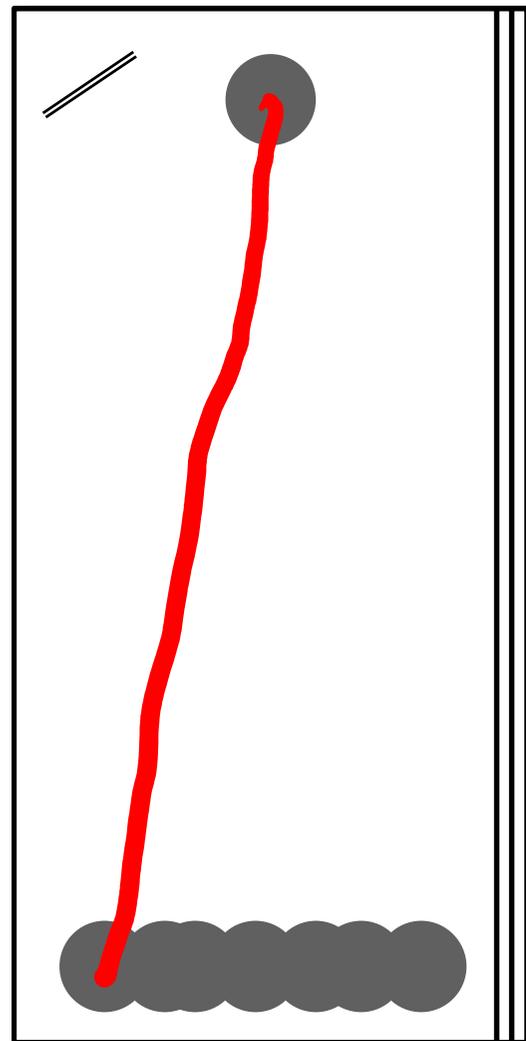
1 最初は短直線から



* 1枚描いたら破り、次の線を引く

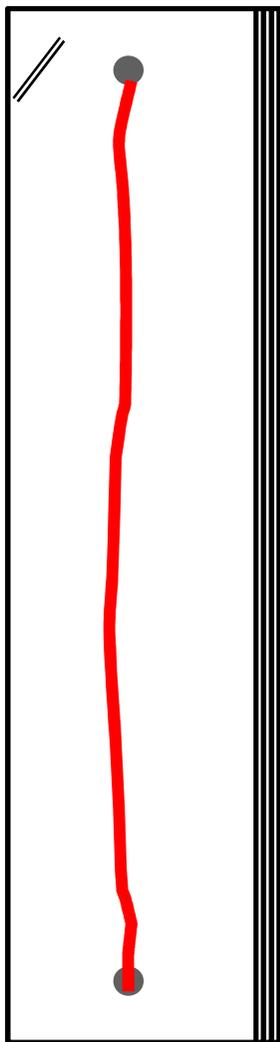
ゴールの穴へ
線を入れられない場合は・・・

ゴールを点から列にして、
入れやすくする

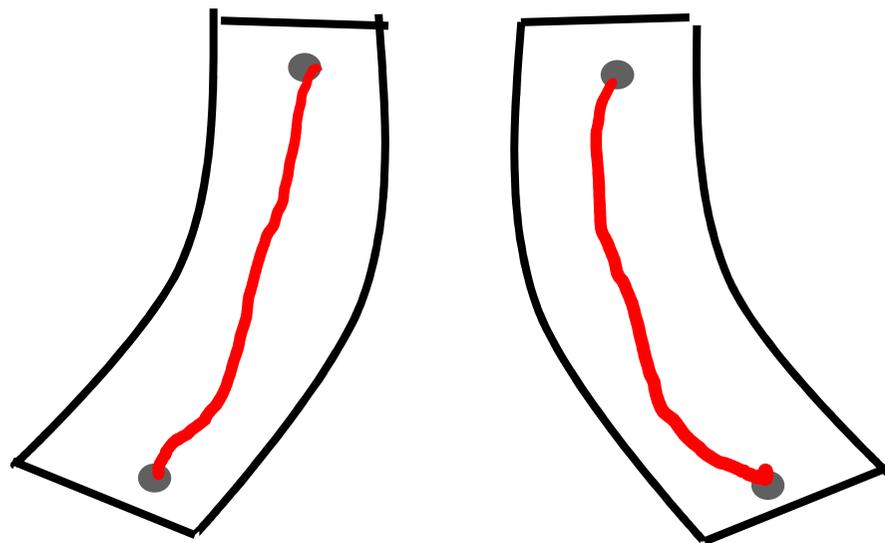


②短直線ができるようになったら難度を上げる

*コースを長くする

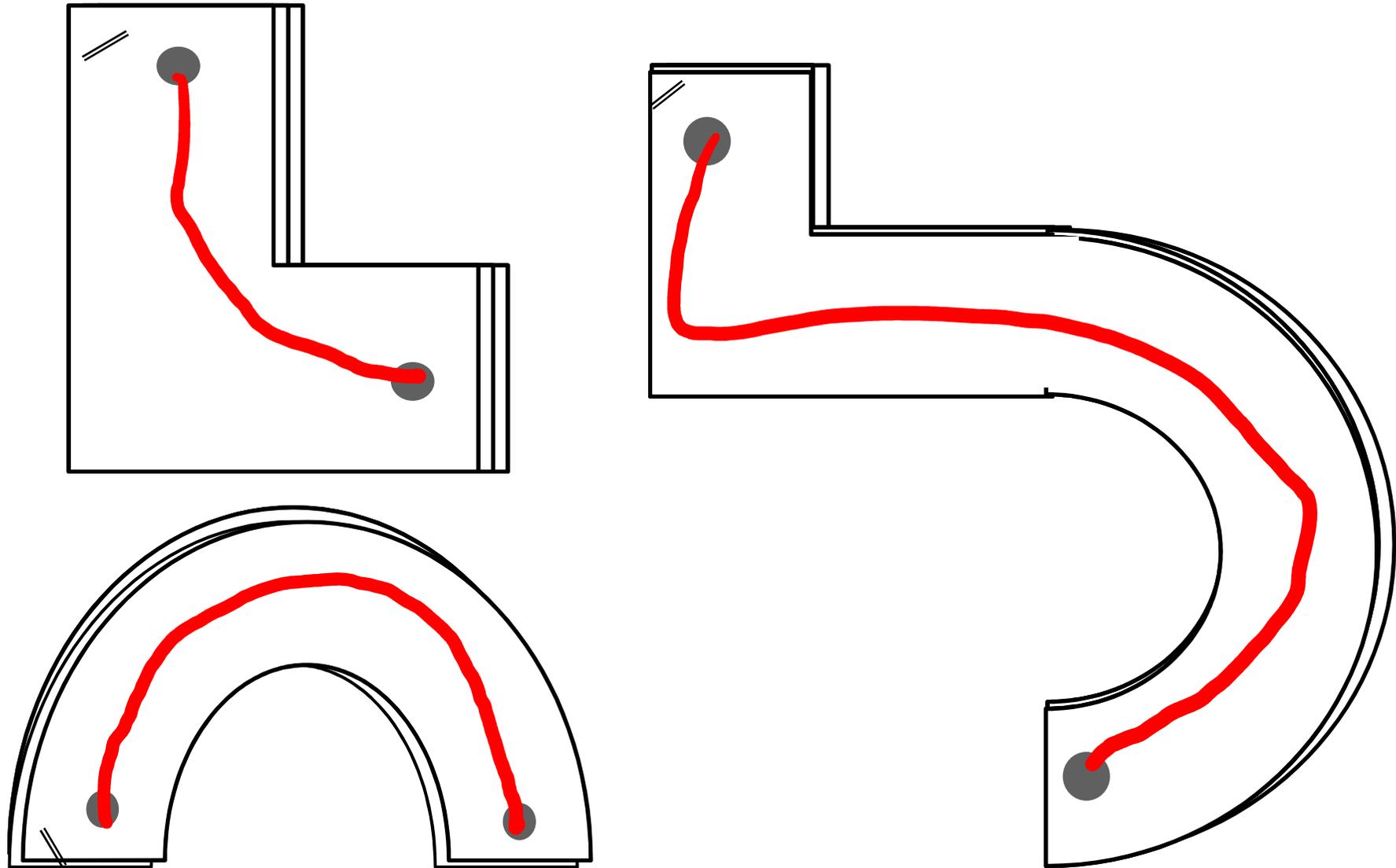


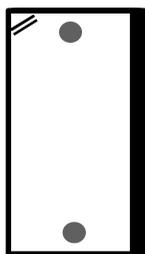
*コースに変化を作る



★道なりの変化

③明確なコース変更があるコースをたどる

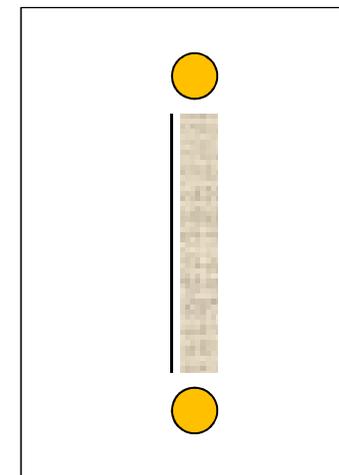




穴あけライティングの特徴

● 立体物の上をたどる

* 線への気づきを高める



平面

● 同じ線を何度も引く

* 繰り返しによる習熟を促す

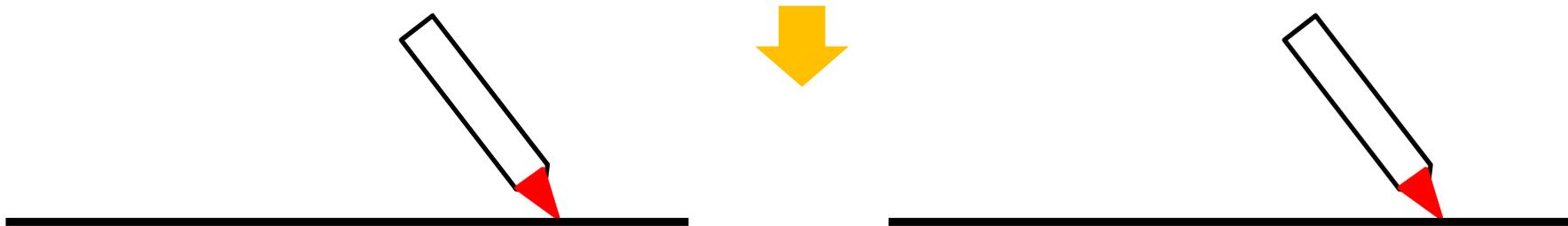
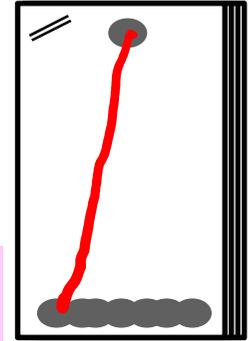
● 穴から穴へと線を引く

* 始点—終点の気づきを高める

穴あけライティングの目的①

短直線の場合

ペンを紙から離さずに線を引く



描線の出発点は、ペンと紙の接触

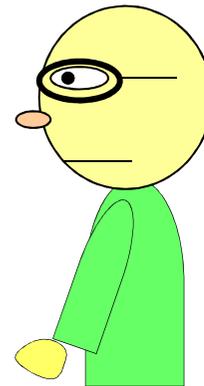
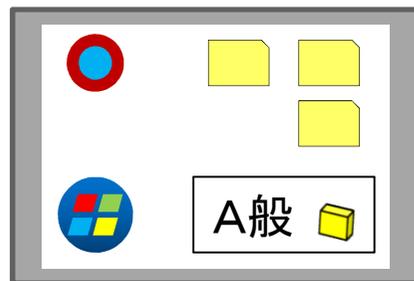
接触の持続が描線の基盤

線は、筆記具と紙の境界に生まれる

ITにおける
境界は

接面

インターフェイス



境界を考え、形作っていくことが、
人間の認識自体を変えて行く

それにしても・・・

紙とペン = 描くものと描かれるもの

どちらが大事なのだろうか？

それは難しい問題だけど・・・

接触の持続を実現するための
道具と材料を考えることは重要

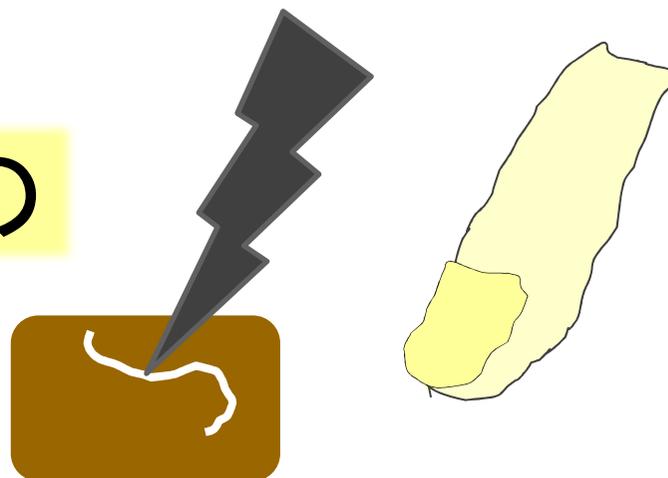
鉛筆？ペン？指？

紙？粘土？ガラス？

たとえば..

最初の文房具

何か尖ったもの



鋭利さ

先端の使用

人間の文化において本質的なもの

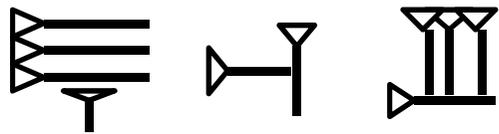
人間の発達における重要因子

第4回学習会「パソコンを通じた学習」のスライドから

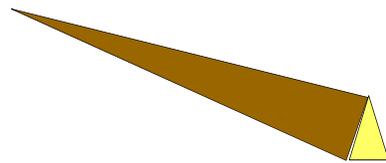
文具と素材が文字を生み、変化させてきた

楔形文字

起源前3000年
メソポタミアで誕生



特徴 直線と三角形による記号



葦(パピルス)の先を三角に、切り落とし、粘土板に押しつけて文字を刻む

紙の発明

起源107年蔡倫による発明

墨の誕生

鉛筆の発明

ワープロの開発

👉 第4回学習会「パソコンを通じた学習」

接触の持続を可能にするには

視る能力の発達

* 動く線を追視できる

運動能力の発達

* 同じ位置を保てる

それらを基盤として..

ペン先の感覚の形成



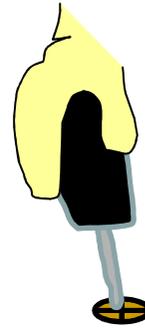
自分の体の先にある

ペン先の筆触を感じる

それは言いかえると…

道具(ペン)に自分の体を延長する

暗黙知



自分の身体を拡張する



そのことが、描線を可能にする

でも、ペンの前に

人間は、まず自分の体を道具化する

指

とくに

* 人さし指



指で指す

指でなぞる

指で押す



指を道具化できることによって

さまざまな活動と認識が広がって行く

人さし指が、
道具的に使えるようになること



筆記具で線を生みだすための
スタートライン

空書・空描の
重要性



キーボード入力の練習

介助入力

* 子どもの手を取って入力



指示入力

* 押すキーを指示して入力



自己入力

* 自分でキーを探して入力



第14回学習会「基礎的学習を考える」から

穴あけライティングの目的②

曲線の場合

コースの変化を一筆でたどる

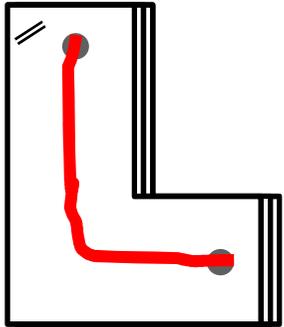


ペンと紙の接触を保ちながら、
形に沿って手を動かす

***** 滑らかな運動の必要性

穴あけライティングの目的③

折れ線の場合



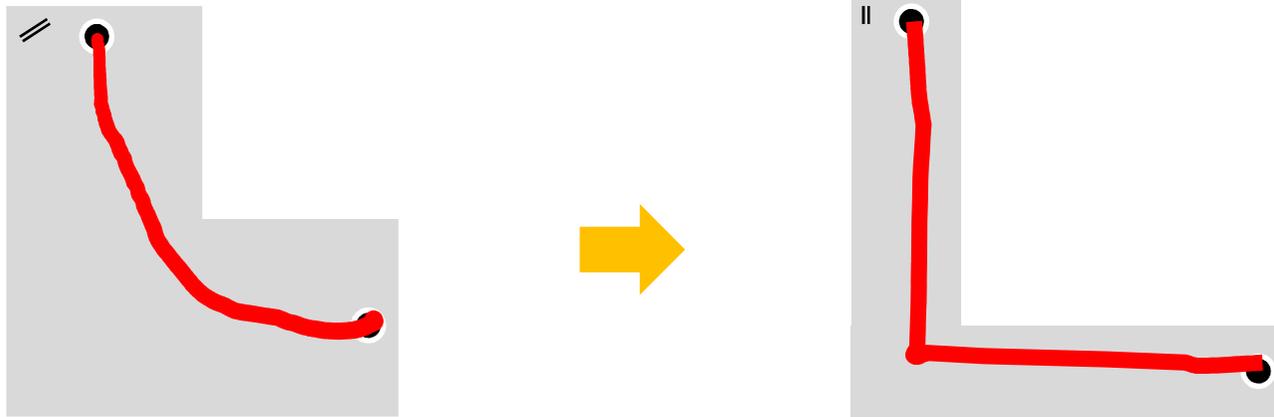
コースの変更を一筆でたどる

ペンと紙の接触を保ちながら、方向変換の地点で、一度停留し、また線を続ける



ストロークの変更

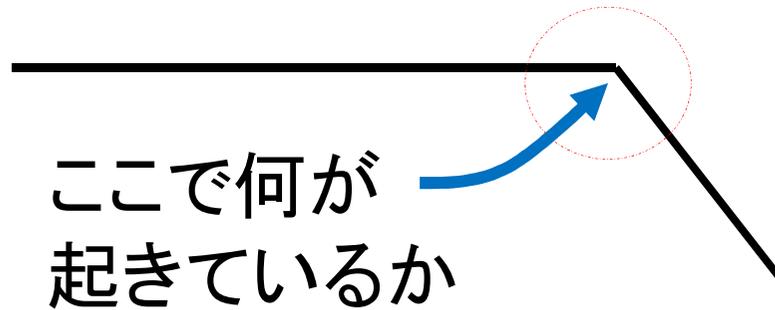
曲線から折れ線へ



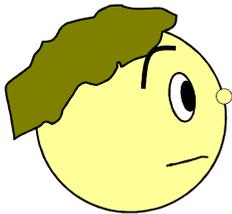
道なりから変更へ

👉 第14回学習会「基礎的学習」

折れ線



道なりではない、「**変更**」



描者の、意識的な方向転換

折れ線には、変更を決断した
「自分」がある

👉 第14回学習会「基礎的学習」

でも、基本ストロークとなる、直線も・・・

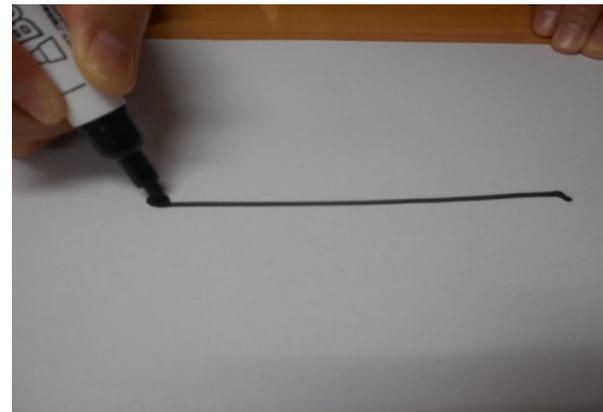
起筆

送筆

終筆

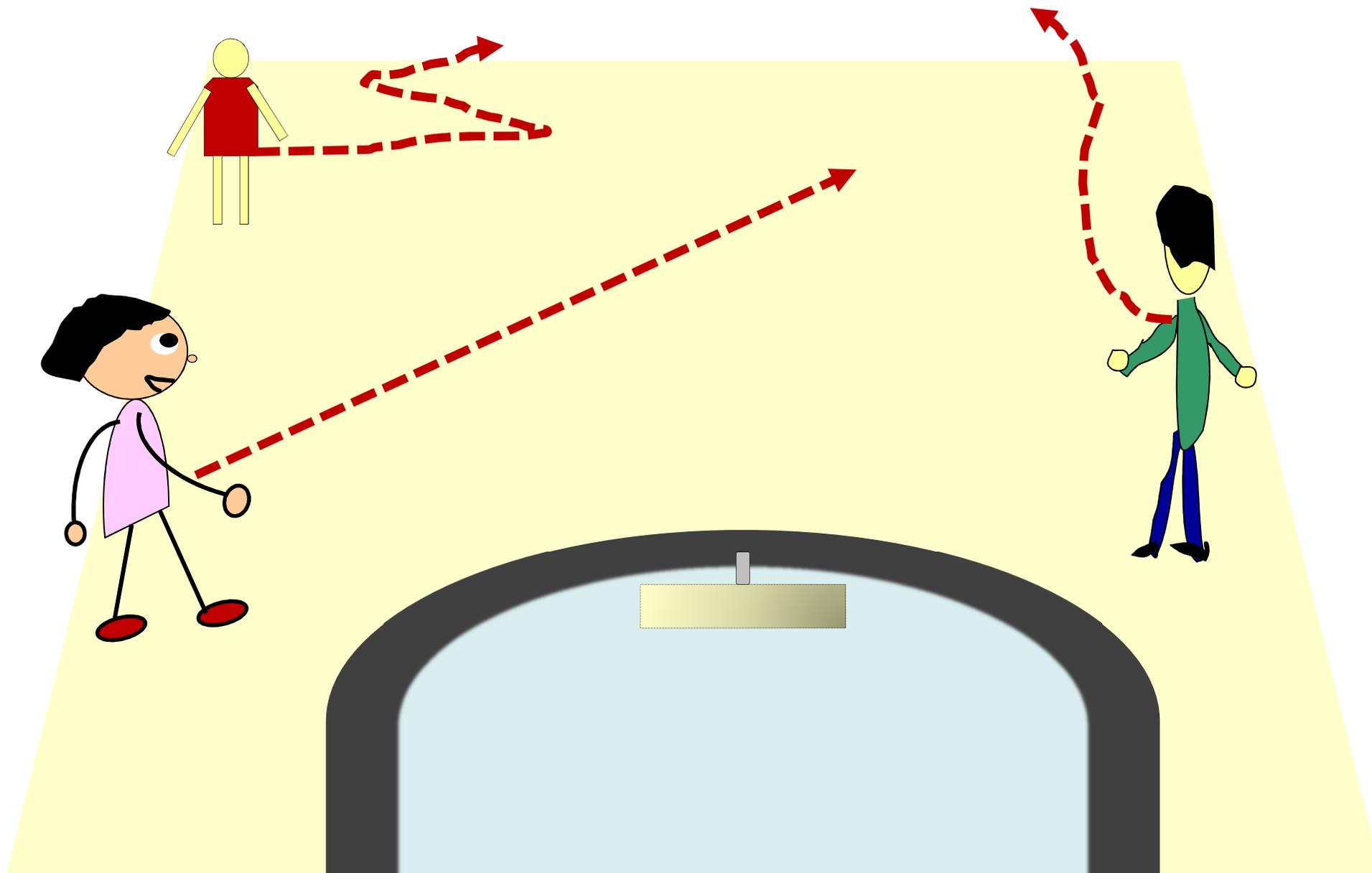


明確な始点と終わり点の
意識を持って描かれるもの
ある意味で、折れ線といえるもの



線の心

毎朝の車の運転で...



軌跡(動きの線)を推測して運転している

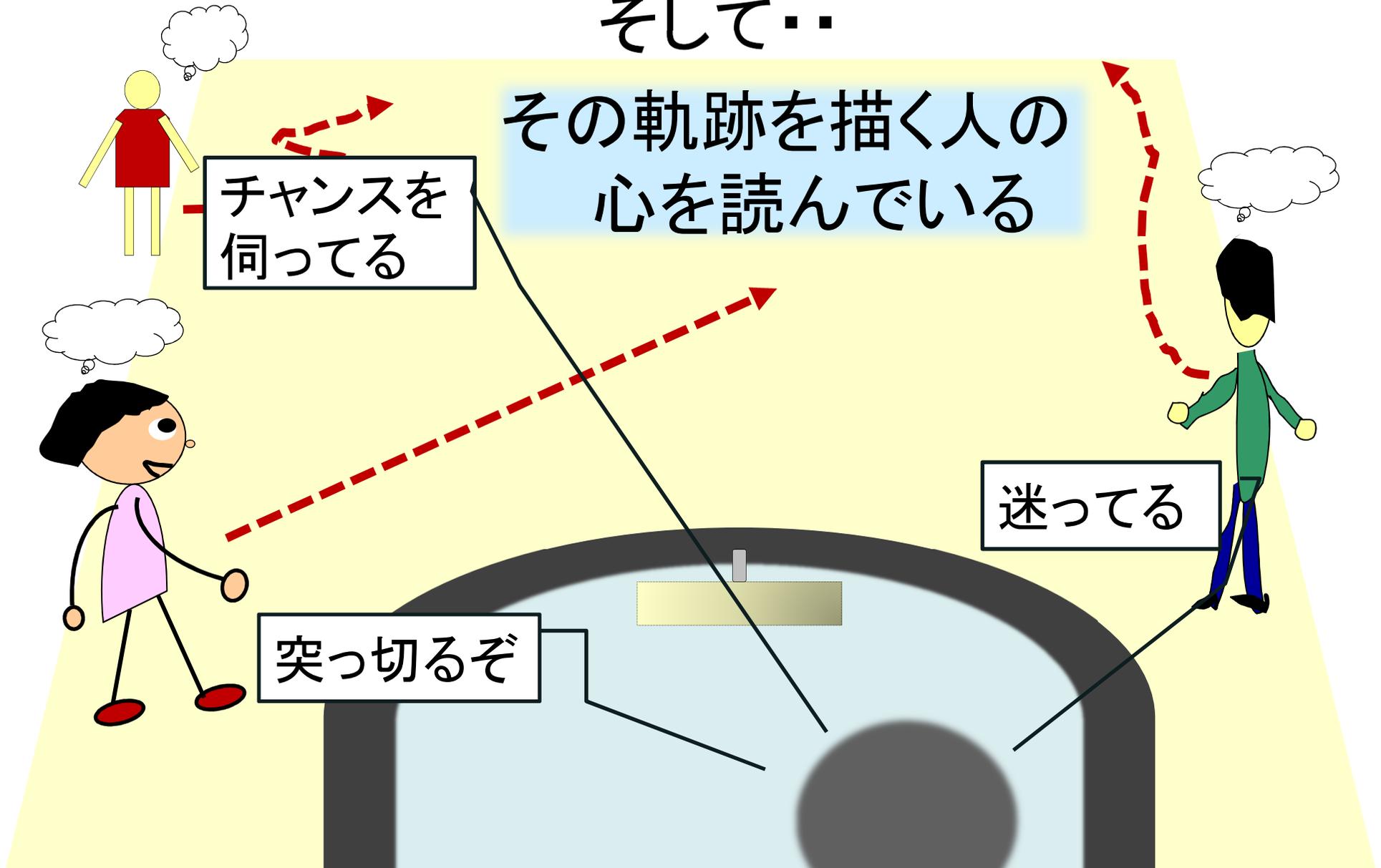
そして..

その軌跡を描く人の
心を読んでいる

チャンスを
伺ってる

迷ってる

突っ切るぞ



軌跡は、人の心を反映している

それは

動きのラインだけではない

描かれた線も、心を表している

たとえば..

震える線



太い線



強い筆圧の線



断続的に変化する線

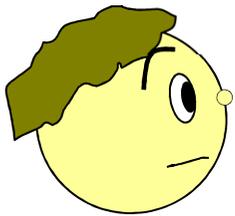


線は、心が外に表れたもの

描線の練習は・・・

運動技能を育てるだけではなく

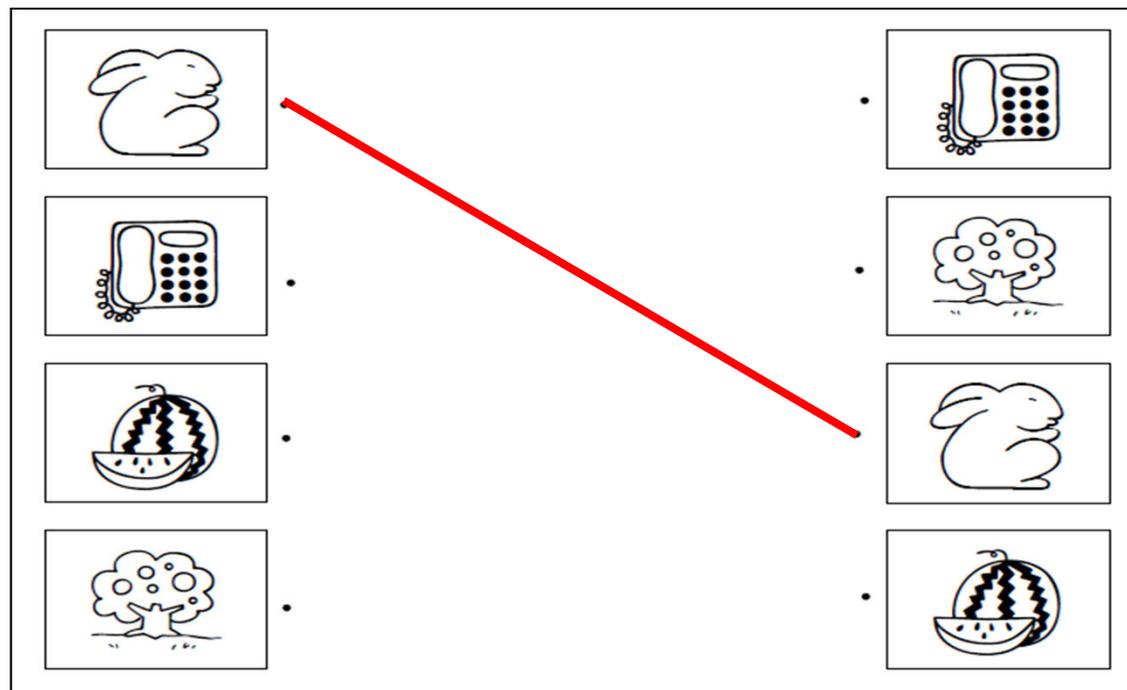
意思や判断、安定した気持ち・・・



さまざまなところを
育てるもの

マッチング
課題

■ 同じものを線でむすぼう



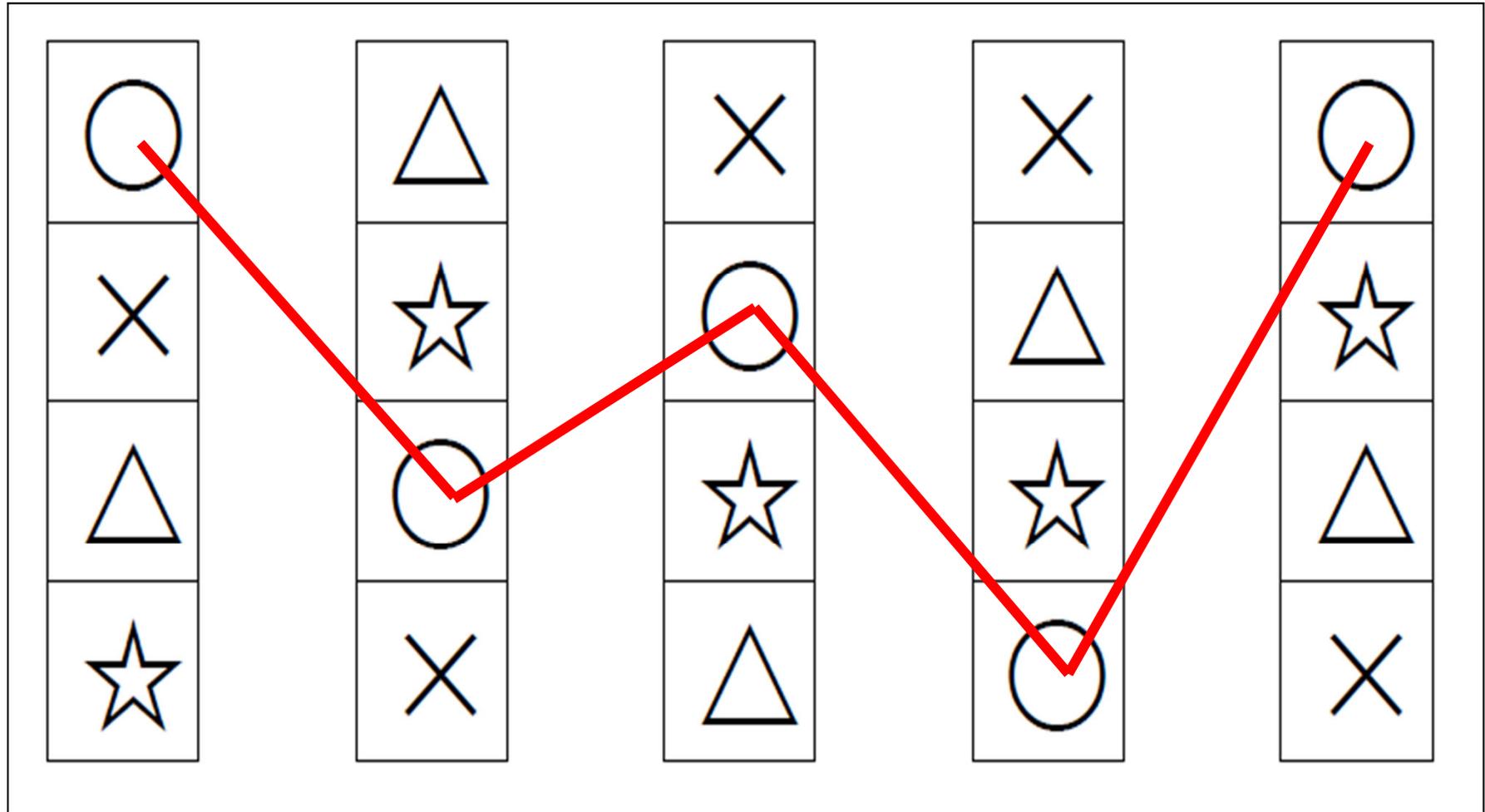
同じものと判断した、
ということを表すために
ふたつを線で結ぶ



人間は、本質的に
線に、意味を見る
線の中に、それを
引いた人の心を見る

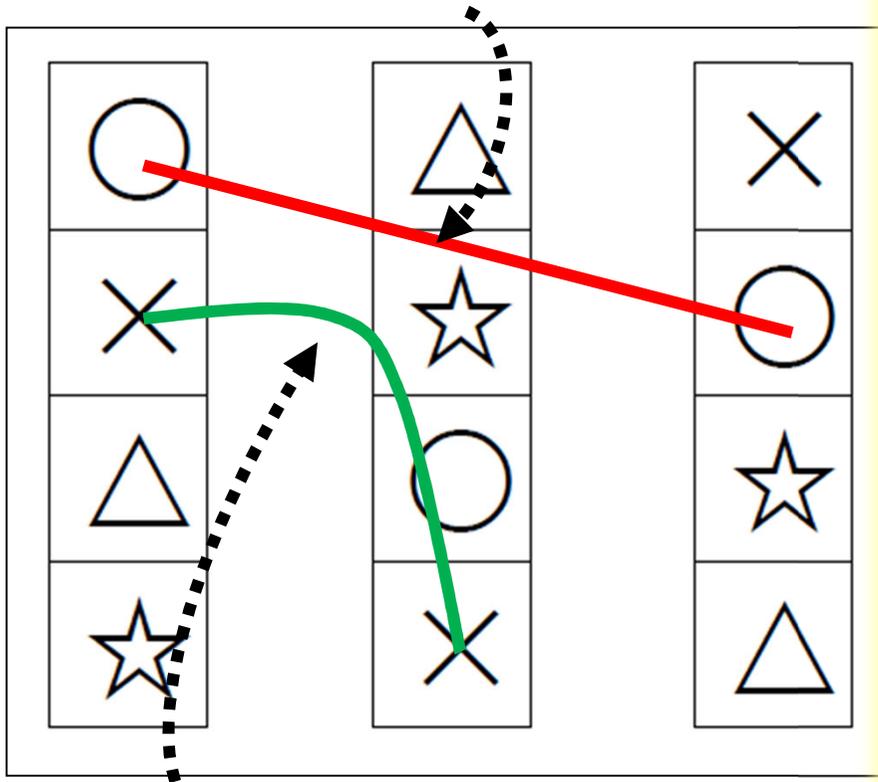
連結課題

■ 同じものをつなげよう



× よくあるエラー

①列を飛ばす



どちらも、ルールのエラーではなく、
注意不足や衝動性
に原因がある



まず行動してしまう

②線が最短距離
を取らない

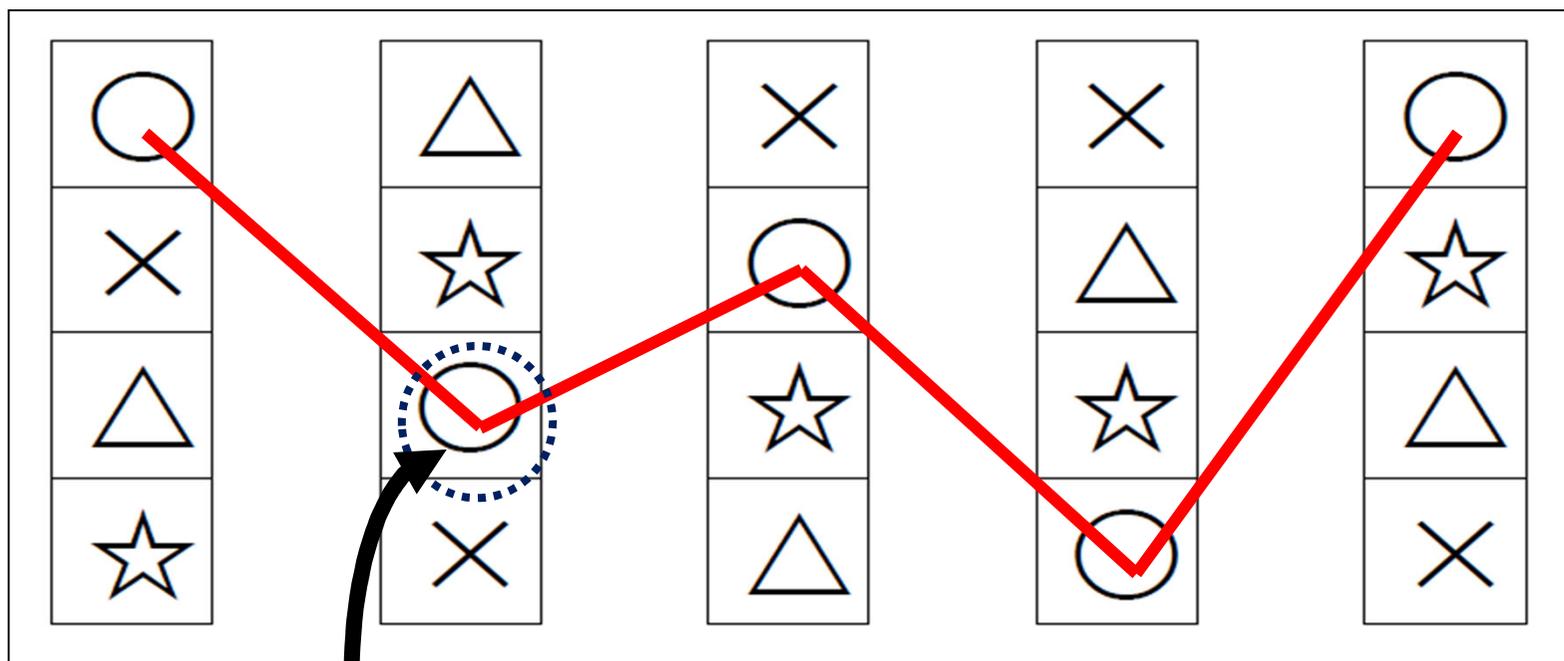
「同じものをつなげよう」の目的

認知 → 判断 → 実行

という、行動図式をつくる

止まって、
見て、
判断して
実行する

同じものをつなげよう



曲線ではなく、
きっぱりとした折れ線で
引いてほしい

次の標的を見定めてから
線の方角を変える



課題に対する明確な
意図・応答

しかし、発達障害の子どもの中には、
描線の課題に関わらず、
まず「やってしまう」ことで
失敗してしまうことが多い。

指示や、判断を待つことが難しく

つねに、性急に、前がかりで
行動する傾向がある

それはなぜだろう？

「まずやってしまう」のは、
さまざまな原因があると思われる

- 抑制力の乏しさ 衝動性の高さ
 - * 抑制と促通のバランスが取れていない
- 状況に対する不安
 - * 決まった構造・パターンへの固執
- 注意・集中能力の乏しさ
 - * 状況全体に目を配ることが難しい
 - * 一定の水準で注意を維持できない

コミュニケーション的な見方からは・・

●他者への注目・関心の乏しさ

* 相手からの働きかけに気づかない

●社会性の乏しさ

人間の活動は、すべて他者と自分との
歩み寄りで成り立っている

そのような子どもに、
いつもかけていることばがある

ゆっくりで行こう

「ゆっくりで行こう」とは、

行動や運動の遅速化を促すこと

ゆっくりは、速いよりも

★むずかしく そして、★優れている

と、いう価値観を持ってほしい



スピード偏重の価値観の存在

遅速化の意義

- 巧緻な運動の達成
 - * 丁寧さ、きれいさの向上
 - ミスの軽減
 - * 確実さ、適切さの向上
 - 「判断」の機会を作る
 - * 考える暇を持つ 「変更」の形成
- ➡ ゆっくりは考える時間を生み出す

遅速化を促すもの

注意・集中力の向上、固執・不安の軽減、
社会性の形成のほかに・・・

- リズムの援助
- 緩急のコントロール
- プラン機能

遅速化の課題

■ 線なぞり



成功のポイント ゆっくりたどる

ゆっくりと線をたどることは難しい

行動調整＝ペーシングの難しさ

* 速くはできても、遅くできない

結果として、枠からはみ出してしまおう

その結果・・・

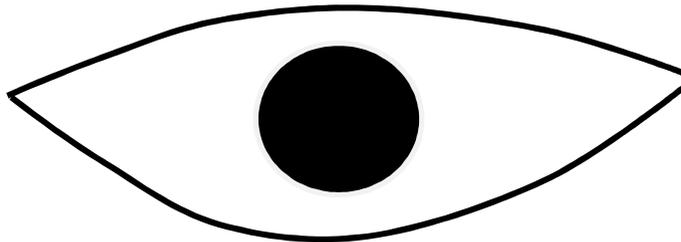
違う道に入ってしまったたり、
ゴールまで行きつかなかったりする

ゆっくり線が引けないのは・・・

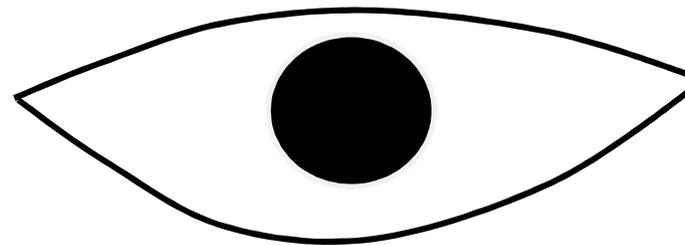
視る機能の問題もある

眼球運動のコントロール

ゆっくり動かす



速く動かす



しかし、失敗しないような工夫を、
無意識に行う子どもも多い

はみださないための工夫①



鼻歌を
歌いながら引く

♪タータータカタカ、
タータータカタカ・・・

なぜ、鼻歌が効果があるか

● 音楽による、リズム・テンポの援助

曲のテンポ・リズムが、運動速度の一定化・安定化を促すのではないか

● 行動の複線化による衝動の軽減

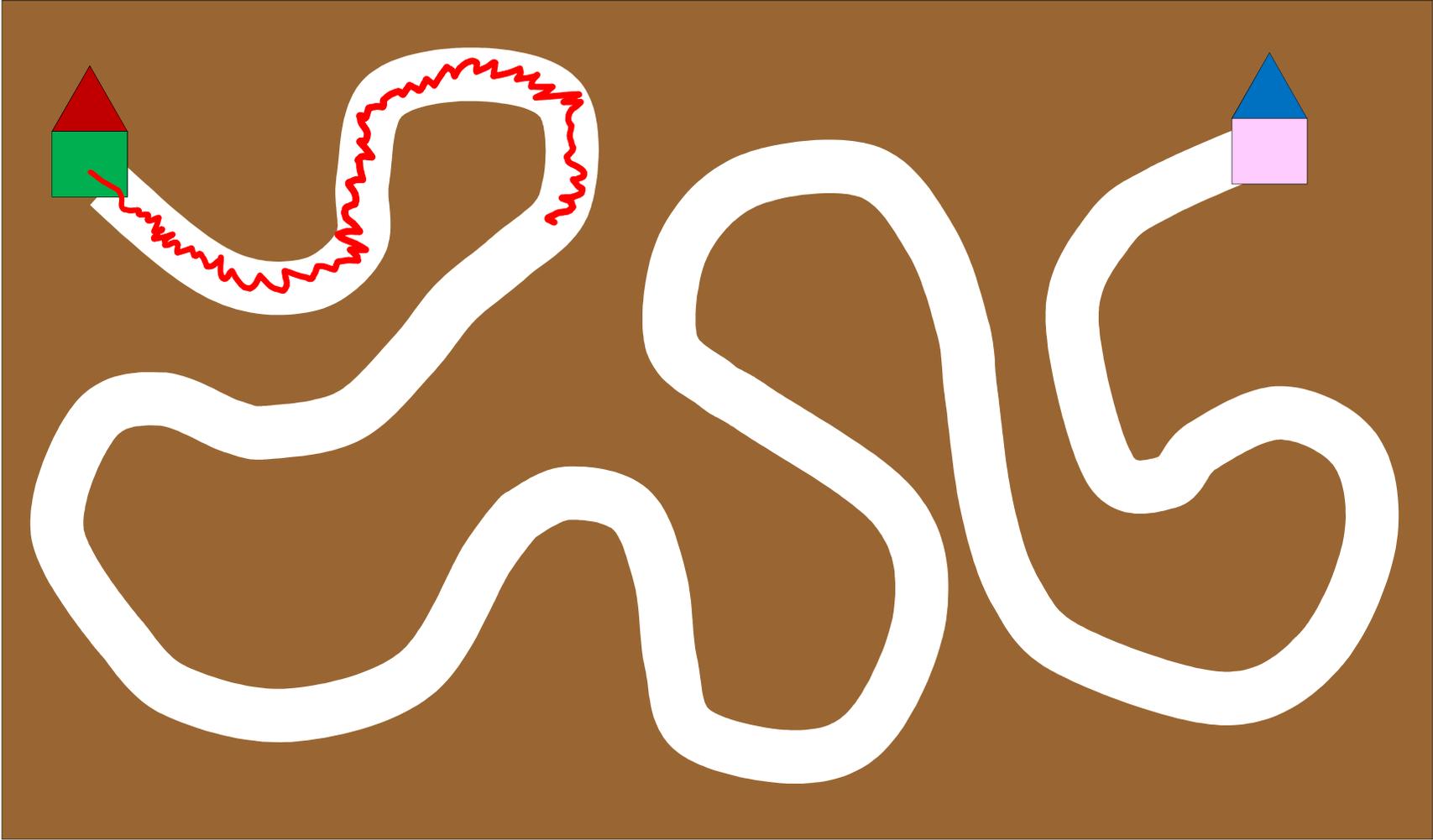
描線と歌唱という異なる行為が、それぞれの行為を抑制するのではないか

フットとの相関性 あし たは かい しゃに いく

👉 第13回学習会「俳句について考える」

はみださないための工夫②

ギザギザ線・震え線を引く



なぜ、ギザギザ・震え線が効果があるか

- 反復運動による、描線方向への
スピードの遅速化

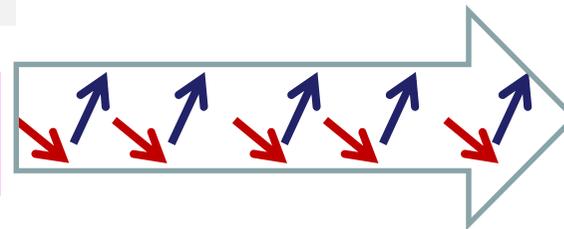
相反する方向への反復運動が、
衝動を抑制するのではないか

進行方向への
衝動亢進



高速化

±の反復運動



遅速化

遅速化の 課題

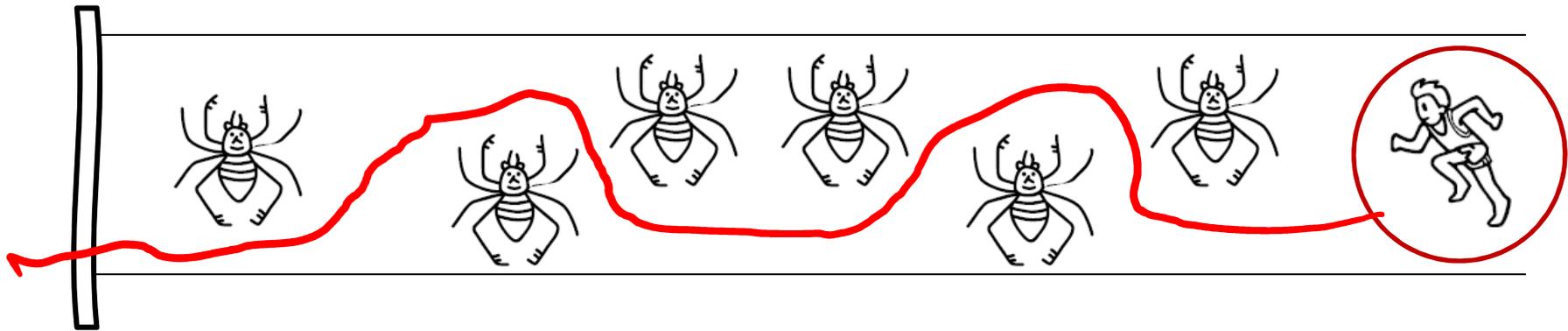
■ よけてゴールしよう



ゴールまで障害物に触れないように線を引く

できるだけ、ひと筆描き(1ストローク)で引く

この課題をクリアするには、
いくつかのポイントがある

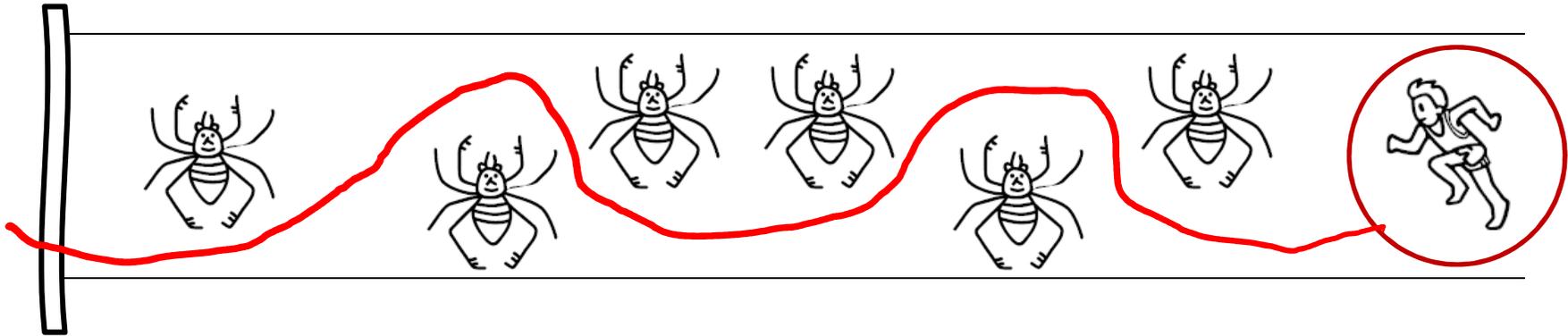


ポイント① 描線の速度のコントロール

* 簡単な所は速く、難しい所はゆっくり

ポイント② ストロークの変更

* コースを変える箇所で、手を止め、
ペンを紙から離さずに、コースを変える



ポイント③ 描線のコースプラン

- * 行く手のコースの見通しを立てる

ポイント④ ペースの安定

- * スタートからゴールまで一定のペースを保つ

ゴール間近で失敗する子どもが多い！

緩急の必要性

「ゆっくり」が大切

でも..

「速く」があるから
「ゆっくり」がある

遅い 速い

「速く⇔ゆっくり」の緩急をつけられる



「ゆっくり」ができることにつながる

見通しの必要性

見通しがあることが、
行動を落ち着かせる



「見通し」のトレーニングが、
行動の抑制につながる



「ゆっくり」が見通しの暇を与える



★「描く・書くこと」と衝動性

描く・書く行為は、
衝動性や固執と結びつきやすい

- 自閉傾向を持つ子どもの
書く(描く)ことへのこだわり
- 脳損傷による書字衝動亢進や
道具(筆記具)の強迫的使用

描線や書字を「ゆっくり」行う

* 意義と難しさの両面がある

「よけてゴールしよう」の課題をしていると・・・

子どもの運動の特徴がよく表れる

動きがぎくしゃくしていたり、
速度に疎密がある子どもは、
線を引く場合も、一定のペースを
保つことができないことが多い

そして描線は、もうひとつ、
人間の重要な運動と
歩みをともにしている

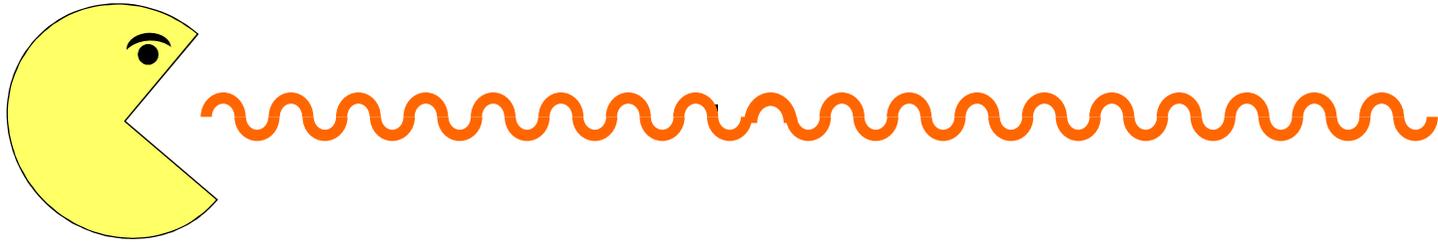
線と声

線と声の類似性

✦ 線と声は、同じ特徴を持つ ✦

- つながり伸びて行く
- 長さ・太さ・滑らかさ・変化がある
- 発達とともに洗練されて行く

● つながり伸びて行く



単語や文でも..

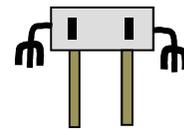
音が渡りながら、声はつながっている

* さかな sakana

* なまえはたなかです



人工音声



ワ・レ・ワ・レ・ハ...

● 長さ・太さ・滑らかさ・変化がある

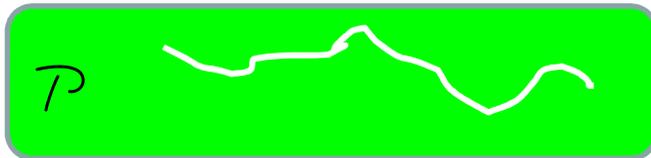
* 長さ



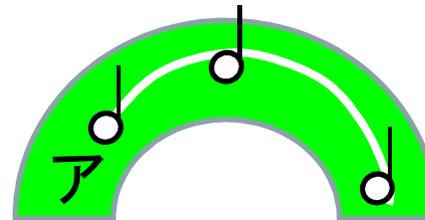
* 太さ



* 滑らかさ



* 変化



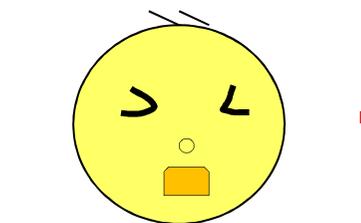
● 発達とともに洗練されて行く

★ 声の発達

★ 描線の発達

どちらも、滑らかに、
つながるように
発達して行く

★ 声の発達



叫喚声

どのような文字にも表せないような音

喉頭の変化

息のコントロール

声帯の開閉コントロール



喃語

徐々に特定の音として同定できるようになる

音節の誕生

ta, pa, ma ...

音の出し分け(調音)

音の高さの調節



話声

滑らかに、連続して、話せる声になる

始語の産生

マンマ、パパ...

声の発達とは・・・

息の吐き方や、声帯の開閉や、
ピッチ（音の高さ）や、ボリューム（音量）を
自分でうまくコントロールして

やわらかにつながる声を出すこと

その声が、「話す」ことを可能にする

さらに

円滑に「話す」ことを可能にする

発達障害の強い子どもたちの声

「話す」ための声＝話声が
獲得されていない場合が多い

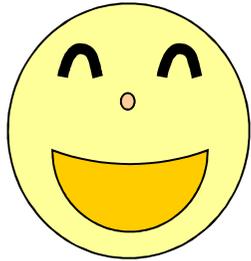
うなるような声 途切れ途切れの声

絞り出すような声 甲高い声

まず

発語や発音の習得の基盤として、
柔らかかな声＝話声を獲得する必要がある

■ 声の持続の練習課題

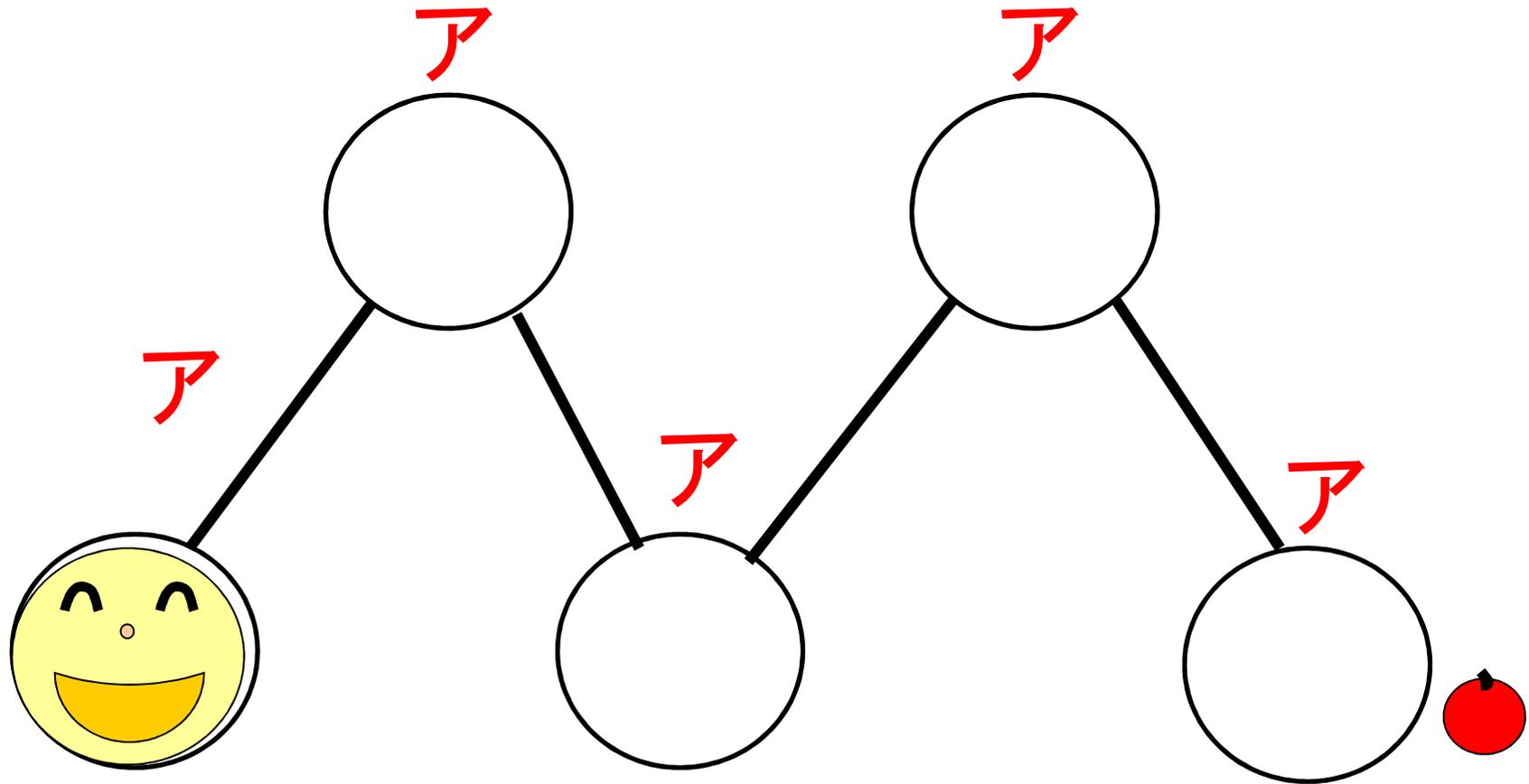


ア



「ア」の顔文字が描かれたピースを、リンゴまで動かしながら、/ a /の発声を持続する

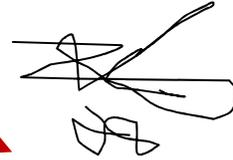
■ 連続した音節產生の練習課題



「ア」の顔文字ピースを、線に沿って動かし
○に来たところで、/ a /の発声をする

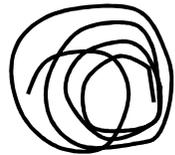
そして線もまた・・・

点描



なぐり書き

円錯画



タテ・ヨコ線

滑らかさとつながりに向かって
発達して行く

滑らかさ、やわらかさは、運動の基盤

- 滑らかな声 = おしゃべりの原材料
- 滑らかな線 = さまざまな線や形の原材料

それでは・・・

滑らかさを支えるものは何か？

滑らかさへの発達を支えるもの

- 協調運動
- 自己制御(コントロール)
- 情緒の安定 etc

描線と発声、それぞれの練習と発達が
互いを育てて行くのではないだろうか

測定

測定とは何か

ある単位を規準として、量を測ること

個数・長さ・重さ・時間・広さ・硬さ etc

具体物だけでなく心理的尺度もある

社会常識

👉 第11回学習会「自己洞察について考える」

尺度の段階

個人の主観・文脈での尺度

「こっちの方が大きいな・・・」



限定された文脈での尺度

「これには、これが丁度いいね」



社会一般の尺度 **単位**

メートル・グラム・秒 etc

単位と測定の意義

社会との共有

みんなと、同じ物差しで、
同じように、何かを測ることができる



常識の形成 | 共感の形成

長さを測る

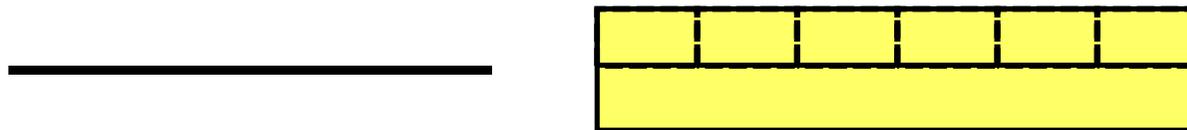
長さの測定の意義

● もっとも日常的なもののひとつ

* 身長・靴のサイズ etc

● 取り組み（測定）がしやすい

描かれた線分と定規さえあればできる



しかし・・・

定規を使っての長さの測定は
発達障害の子どもにとって大変難しい

難しい理由

- 定規を線に沿って当てられない
- 線分の始点に、0点を合わせられない
- 線分の終点と定規の目盛を対応できない
- 定規のエッジに沿って線が引けない

etc...

難しい理由 の原因には

■ 視る機能 ■ 運動機能 ■ 単位概念

これらの未熟さが当然あるが...

「線」というものの基本的な概念が
できていない部分が多い

★ 線には始点と終点がある

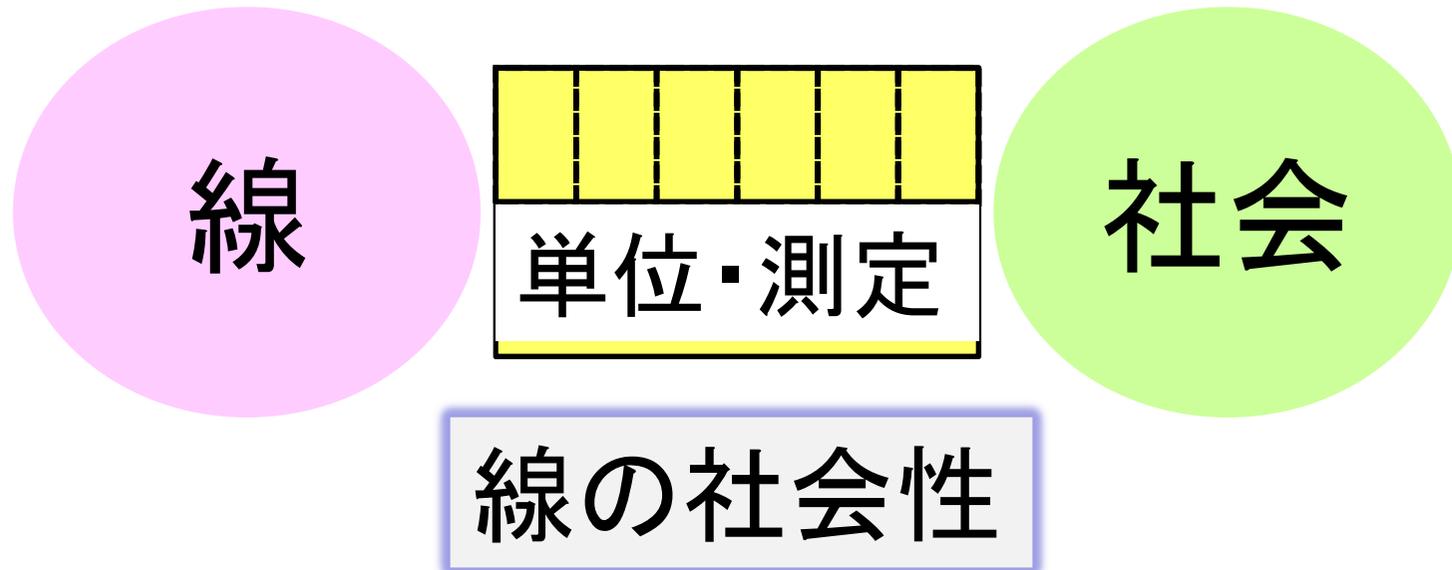
★ 線には長短がある

★ 線には方向がある

気づきや
注目の
乏しさ

長さの測定の学習の意義

- 長さの測定を通して線の認識を育てる
- ストロークの意識化 始点—終点の焦点化
- 単位・測定を通して社会的概念を育てる



線を測る

長さの測定

描かれた線を
定規を使い
長さを測る

長さの産生

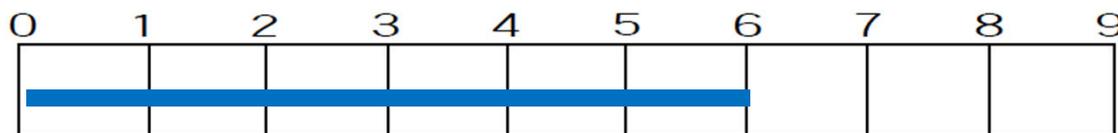
定規を使い
特定の長さの
線を描く(引く)

★段階的な学習が必要

段階A

測定

ながさを はかろう A



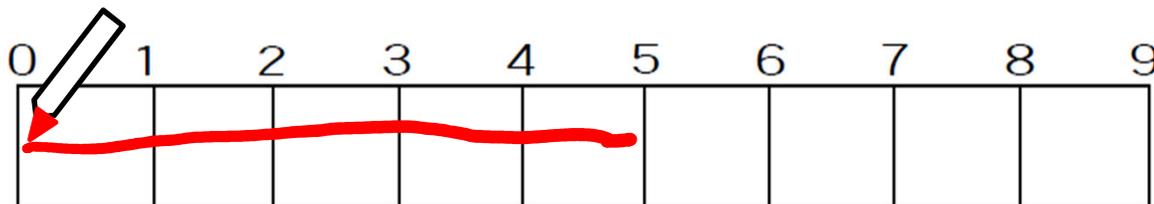
ながさは (6)

引かれている
線の長さを、
数直線の目盛
で読む

描線

せんをひこう A

(5) までせんをひく

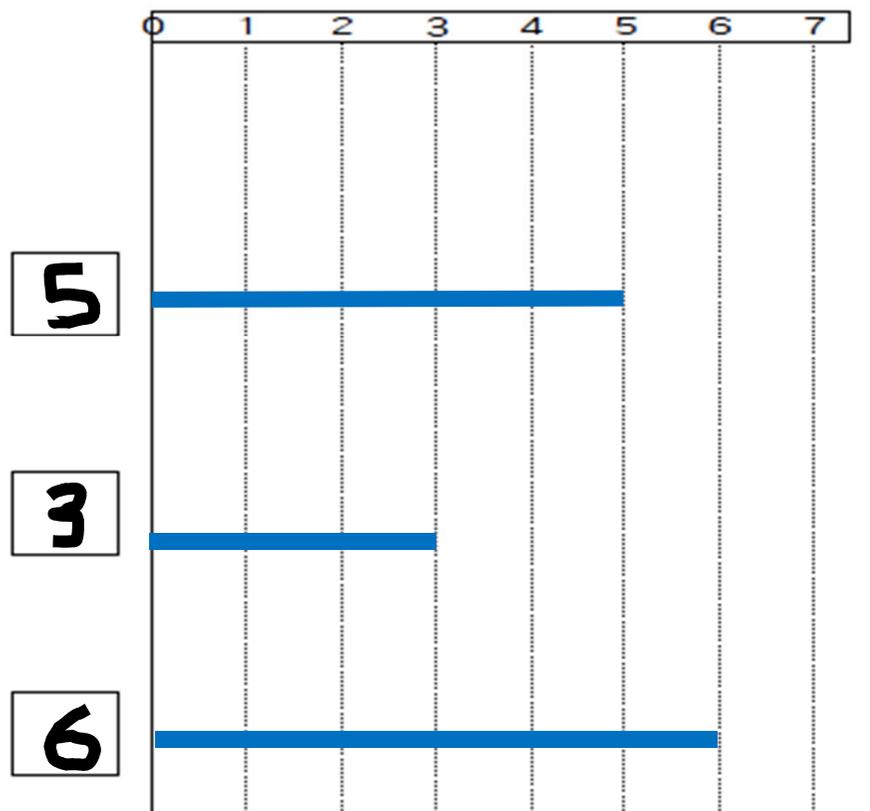


指定された長さ
の線を、数直線
に沿って引く

段階B

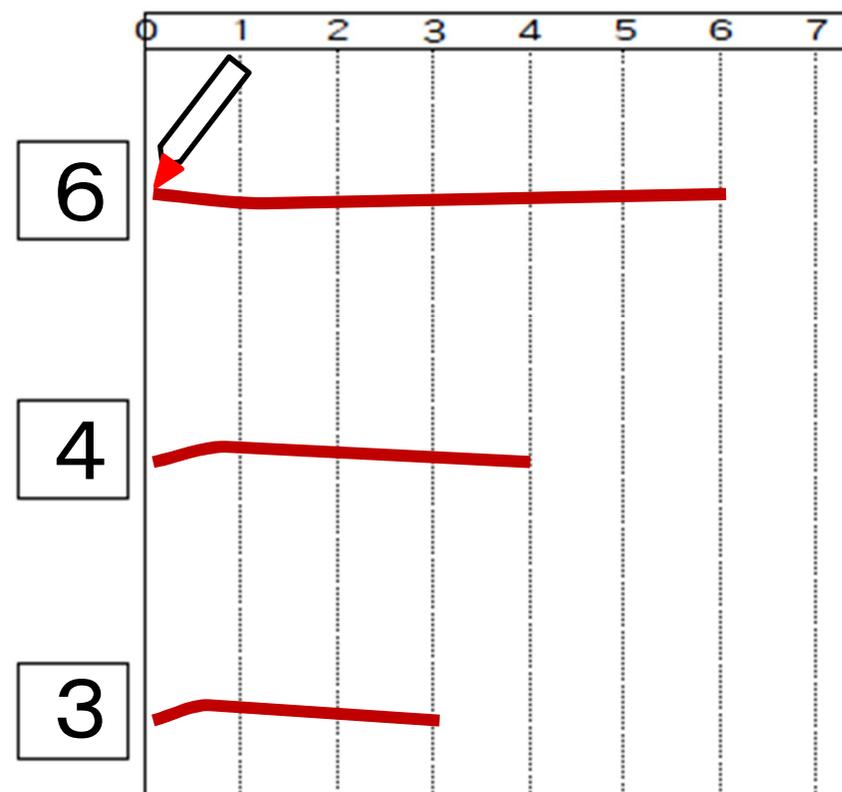
線の長さを、数直線と縦罫を使って測る

ながさをはかろう B



指定された長さを、数直線と縦罫を見ながら引く

せんをひこう B



段階A・Bの学習目的

- 道具（定規）使用の前段階として
長さをまず、個数的に捉える

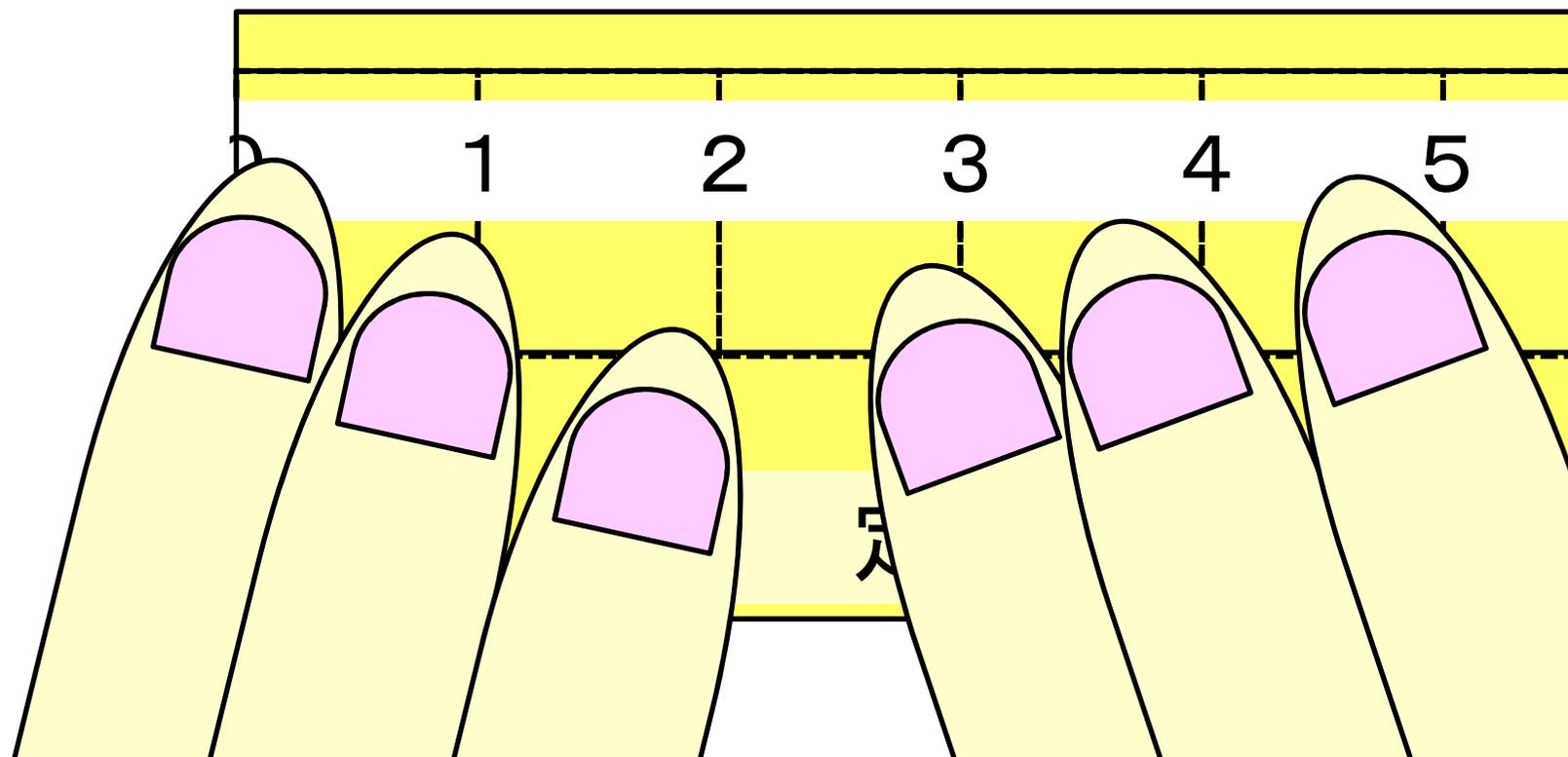


- 目盛・単位の存在に気づく
 - 視点移動と注意維持を可能とする
 - * 目盛からの距離を徐々に広げる
- 固定された目盛から、道具の目盛へ

段階C

線の長さを、定規を使って測る

ながさをはかろう C (cm)

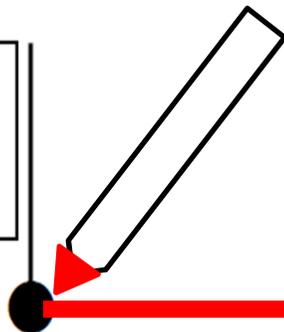


段階C

定規を使って、指定された長さを引く

せんをひこう C (cm)

3



0

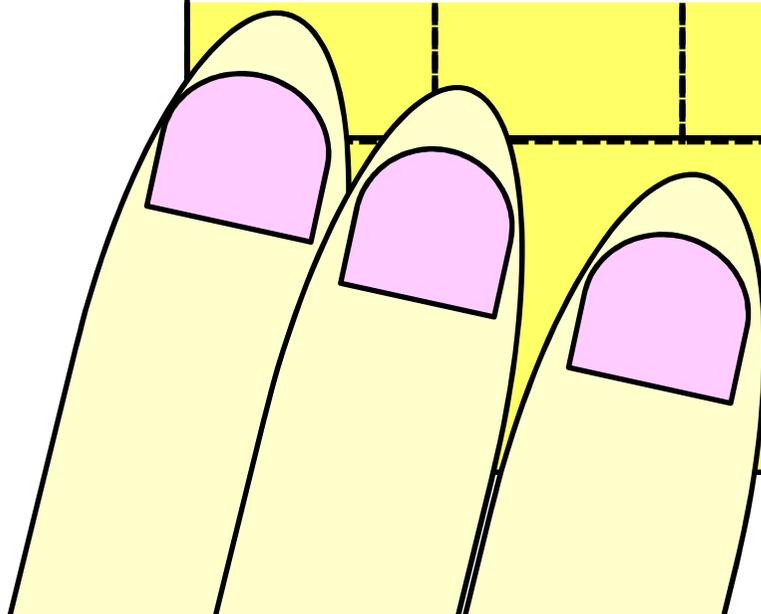
1

2

3

4

5



定規

段階Cの学習目的

● 道具としての定規の使用

* 練習の定規の使用

持ちやすい幅広

読みやすい単位

★ cmより大きなマス目

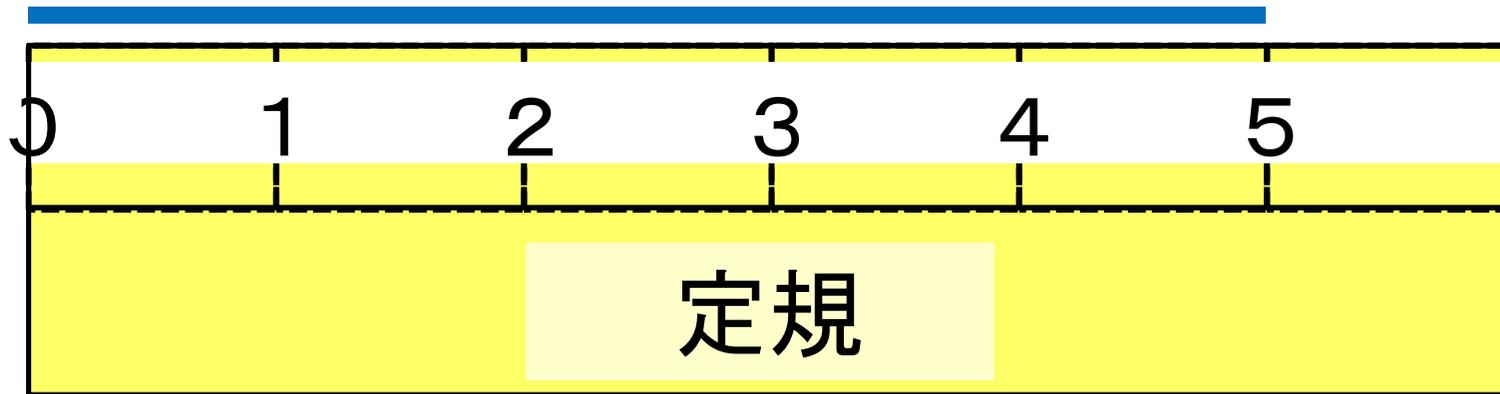
● 単位の普遍化

* 大きなマス目の目盛から

一般的な cm のマス目へ

定規の特徴

沿う・沿わせる



* 線に定規が沿っていないなければならない

「沿う・沿わせる」は、協調・共同の行為

他者との共感につながるもの

線で考える学び

学びの形として

キーワードから考えることばの学習

何かを伝えるというよりは、話し手と聞き手が、学びを深めたり、考えるきっかけを得る場、として考えている学習会

各回ごとにテーマを設定して

核となる事柄に「キーワード」を付けて

そのキーワードを関連づけ、

ひとつの流れ・筋立を作り、お話しをする

という形式で行っている

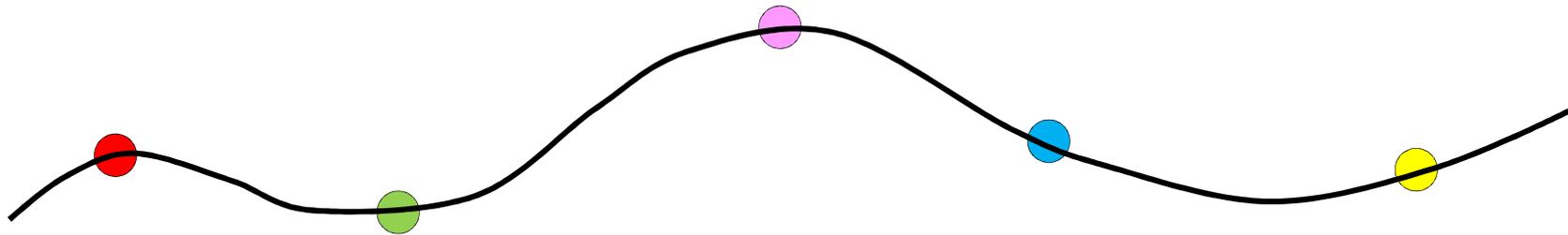
このような学習の形態を
今回のテーマの「線」になぞらえて

線で考える学び

と、名づけてみた

線で考える学び

さまざまな点(知識や事柄、経験etc)を
関連づけ、つなげ、ひとつの線にして、
何かを学ぼうとする



そこには、流れ(ライン)ができる

「線で考える学び」と対照的に考えられるのが・・・

点的な学び

* 何かについて個別的に学ぶ

例：プレグナンツの法則とは何か

⇒事典・ネットなどで調べる

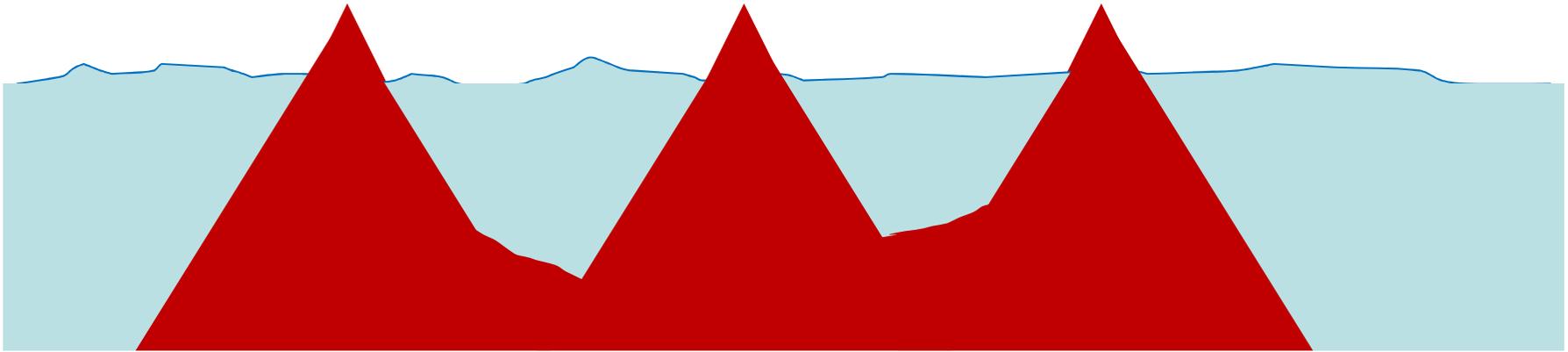
暗記的・急場対応的に行うことも多いが・・・

点が集まって線になるように

点の興味が「線的学び」になることもある

とくに自発的に何かを学ぼうとする場合

* 点は、たぶん、心の底でつながっている



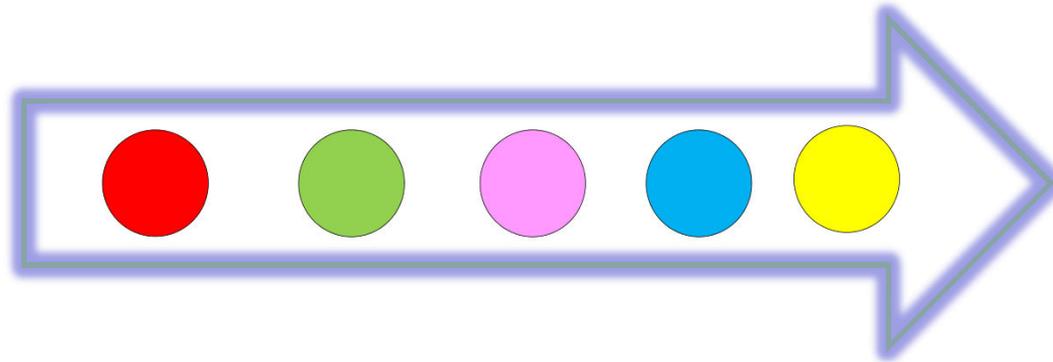
心は無意識に、

点と点とのつながりに気づいている

何となく気になることには、必ず何か、
自分にとって大切なことがある

「線で考える学び」は、また、

さまざまな点の間に関係性を見出し
ひとつの筋書き(ストーリー)を作り
何かを理解しようとするもの



それは、**ストーリー学習**

と、呼ぶこともできるかもしれない

作り手側の

線で考える学び・ストーリー学習の意義

流れ・筋書きを作るために

特定の視点や仕組み、もしくはイメージ
によって、様々な物事を捉えようとする

そのことにより



自分の中で理解できなかったり、価値の
なかったものに、意味と意義を発見できる

聞き手側の

線で考える学び・ストーリー学習の意義

- 物語的展開により楽しい
 - * 興味の持続・問題解決への動機
- 文脈により理解・洞察が援助される
 - * 前後関係による推測・洞察
- イメージ喚起力が高い
 - ↑ ↓ * 話し手との同一化による意味づけ
- 批判的思考が活性化する

聞き手側の意義は、また

作り手側の意義でもある

人間は、他者と語り合うと同時に

いつも、自分自身と対話している

自分の学びや語りの、

いちばん熱心な聴き手は自分自身

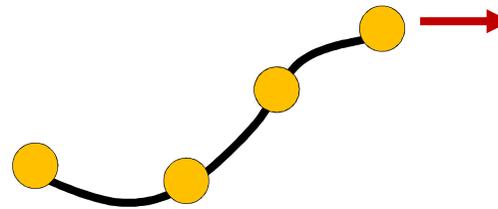
プロセスの大切さ

たとえば、ある景色があるとして、それが

それがホテルの窓から見えたのと、

山道をたどって来て、見えたのでは、

その人にとっての意味が違ってくる



線で考える学び・ストーリー学習の問題点

- ▲ 牽強付会・我田引水になりやすい
- ▲ 複雑・多様なことを単純化しやすい
- ▲ 誇張や省略が多くなりやすい
- ▲ 客観性・中立性に乏しくなりやすい

筋立てられた

学びの話は…

語り

と言えるもの

語りはすべて、編集されたもの

だから

語りは、騙りでもある

騙られていることを知りつつ、

その中に自分にとっての意義を

見つける必要がある

それでも…

👉 第8回学習会「語りについて考える」

だれかの話を聞いて学ぶ場合は、

話の内容や、話し手に対する
信用という問題がある

とくに、教育や治療など、自分ではない
他者に影響を持つ領域については

信用は重要な問題となる

信用とは

相手を信じて、用いること

自分や社会にとって役立つと
思われるものを登用すること

では

自分自身は、どんなときに、
誰かを、信用しているだろうか？

自分にとっての「信用」は

その人をよく知っており

一定の長さの時間を、ともに過ごし

考え方や感じ方に共感・共鳴している

そこに「信用」を置いている

それは線のひとつの性質である

「浴う」と似ている

「沿う」ということ

ひとつの線が、もうひとつの線に
沿って進んで行く

その線に沿っていくことが、線の傾き
や軌跡を知ることにつながり、それが
その先を託す「信用」につながって行く

そして、「浴う」こととともに、自分自身の態度として、最近心がけているのは、

よく話すこと

自分の経験や考えたこと、感じたことを

できるだけたくさん人に話す

そのことが、自分をよく知ってもらうことにつながり、信用の判断材料にもなる

と思っている

【参考・引用図書】★

- 『ラインズ』 左右社
- 『なぜ人は書くのか』 認知科学選書16 東京大学出版会
- 『書く一言葉・文字・書』 中公新書
- 『書くということ』 文春新書
- 「点と線から面へ」 バウハウス選書9 中央公論美術選書
- 「文字の歴史」 創元社 ○『指を置く』 美術出版社
- 『赤ちゃんは知っている』 藤原書店
- 『子どもの絵と心の発達』 有斐閣選書
- 『「見ること」は「理解すること」』 山洋社
- 『子どもの認知発達』 新曜社
- 『言語発達遅滞ガイダンス』 医学書院
- 「幼児期の描線発達と「ストローク単位」の成立との検討」
立命館文学(599) 2007
- 『蓮如』 岩波新書 ○『蓮如-われ深き淵より-』 中公文庫